

課程 全日制

教科	工業	科目	工業技術基礎	単位数	3	学年	1	科	土木工学科
使用教科書	「工業技術基礎」（実教出版 工業 701）、「土木製図」（実教出版 工業 706）								
補助教材等	担当職員が作成したプリント等								

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・パソコン、測量器具、製図道具など、授業内で使用する道具類は丁寧に扱うよう心がける。
- ・図面、レポートなどを期限までに完成させ提出するように、計画性をもって授業に臨む。授業内で完成できない場合は、放課後等を利用し作成する。
- ・欠席の場合、授業担当者の指示を仰ぎ、課題等を完成させる。
- ・内容によってはグループで行うこともあるので、協調性をもって授業に臨むよう心がける。
- ・定期考査は実施しない予定であるので、日頃からしっかり取り組むようにする。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・図面課題の提出 ・パソコン課題の提出 ・レポートの提出 ・測量計算表の提出 ・測量機器の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・図面や課題の完成度 ・測量計算表の精度 ・レポート内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・作業着の着衣 ・道具の扱い ・行動観察

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	・人と技術と環境	・教科書「工業技術基礎」及び「土木製図」 ・製図台 ・製図器 ・電卓 ・測量器械 ・測量器具 ・補助教材プリント	30	・製図の規格 ・製図機器と用紙 ・線の種類と用途 ・文字に関する基本事項 ・巻尺による距離測量 ・2点間の高低差の測定 ・地盤高の測量	人と技術と環境との関わりについて工業を取り巻く状況の変化を踏まえて理解しているとともに、工業に携わる者として必要な基礎的な技術を身に付けている。(a) 工業技術を取り巻く状況に着目して、人と技術と環境との関わりに関する課題を見いだしている(だす)とともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する。(b) 人と技術と環境との関わりなどについて自ら学び、工業の発展を図ることに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。(c)
	5	・図面の表し方				
	6	・測量				
二 学 期	7	・図面の表し方	・教科書「工業技術基礎」及び「土木製図」 ・製図台 ・製図器 ・電卓 ・測量器械 ・測量器具 ・補助教材プリント	45	・平面図の書き方 ・尺度 ・断面寸法 ・セオドライトのすえつけ ・角度目盛の読取りと視準 ・三角形の内角の測定	加工技術について工具や器具の扱い方及び機械や装置類の活用を踏まえて理解しているとともに、工業に携わる者として必要な基礎的な技術を身に付けている。(a) 材料の形態や質が変化することに着目して、加工技術に関する課題を見いだしているとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。(b) 加工技術について自ら学び、工業の発展を図ることに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。(c)
	8	・測量				
	9	・特別ローテーション(他学科生徒対象)				
	10	・図面の表しかた				
三 学 期	11	・測量	・教科書「工業技術基礎」及び「土木製図」 ・製図台 ・製図器 ・電卓 ・パソコン ・各種工具	30	・平面図の書き方 ・尺度 ・断面寸法 ・コンピュータの基礎知識 ・文書作成 ・プレゼンテーション資料作成	生産の仕組みについて工業製品の製作を踏まえて理解しているとともに、工業に携わる者として必要な基礎的な技術を身に付けている。(a) 生産に関する技術と生産の過程における材料の分析や製作途中での測定に着目して、生産の仕組みに関する課題を見いだしているとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。(b) 生産の仕組みについて自ら学び、工業の発展を図ることに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。(c)
	12	・図面の表し方				
	1	・発表のやり方				
	2	・コンピュータ制御情報機器の操作				
三 学 期	3	・機器や工具の取り扱い	・教科書「工業技術基礎」及び「土木製図」 ・製図台 ・製図器 ・電卓 ・パソコン ・各種工具	30	・平面図の書き方 ・尺度 ・断面寸法 ・コンピュータの基礎知識 ・文書作成 ・プレゼンテーション資料作成	生産の仕組みについて工業製品の製作を踏まえて理解しているとともに、工業に携わる者として必要な基礎的な技術を身に付けている。(a) 生産に関する技術と生産の過程における材料の分析や製作途中での測定に着目して、生産の仕組みに関する課題を見いだしているとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。(b) 生産の仕組みについて自ら学び、工業の発展を図ることに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。(c)

合計 105 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	測量	単位数	3	学年	1	科	土木工学科
使用教科書		「測量」（実教出版 工業 715）							
補助教材等		担当職員用意プリント等							

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、測量技術を用いた土木工事に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 測量について実際の土木工事を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 測量に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 安全で安心な社会基盤を整備する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・定期考査において一定の基準点以上を得ることが重要になる。
- ・高校入学してから初めて学ぶ「専門科目」であるため、全員が同じスタートとなる。そのため、各自の積極的な授業への取り組み、参加を期待する。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	測量について実際の土木工事を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	測量に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	安全で安心な社会基盤を整備する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回） ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回） ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言内容 ・行動観察 ・授業への取り組み

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	測量学概論	教科書、電卓	30	・ 測量の分類・方法	<p>・ 各種建設工事に用いられる測量に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得するとともに、創意工夫して測量技術を探求する方法を習得できている。</p> <p>・ 測量に関する学習や測量実習を通して、測量に関する基本的な概念や総合的な把握のしかたを習得し、各種建設工事における測量の意義や役割を理解している。</p> <p>・ 距離測量に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得している。距離測量に関する基本的な概念、測定意義、測定方法を理解し、それらの知識を身につけている。</p> <p>・ 水準測量の観測方法（昇降式・器高式）の特徴と作業手順を明確に理解し、その知識と技術を活かして、高低測量に必要なデータの取得および基本的な測量方法と正しい計算手順を身につけている。水準測量に関する学習や測量実習を通して、水準測量に関する基本的な概念やデータの取得方法およびそのデータの整理方法を理解している。(a)</p> <p>・ 各種建設工事の必要な測量に関する諸問題を総合的な見地からの的確に把握し、みずから考察を深める。</p> <p>・ 測量に関する知識と技術を活用して適切な判断を行い、測量技術の習得のための創意工夫を行っている。これらの過程や結果およびそこから導き出される考え方を的確に表現することができる。</p> <p>・ 距離測量用の繊維製巻尺、鋼巻尺、ポール、トータルステーションなどの測定器具の機能・特徴を理解し、各測量器具の機能や特徴と測定距離や求められる測定精度に応じて、使用する測量器具を的確に分析・判断して効率的に使用することができる。</p> <p>・ 水準測量の果たす役割を理解し、水準測量の野帳記入や、観測データの整理・計算ができる知識と能力をもち、観測結果の取り扱い方を具体的に思考・判断することができる。測定したデータなどから、その結果の良否を分析・判断する能力を身につけ、実習報告書を作成することができる。(b)</p> <p>・ 各種建設工事の必須技術である測量に関心や探求心をもち、その社会的意義・役割の理解と諸問題の解決をめざして、主体的に学習に取り組める。建設技術者の一員としての望ましい心がまえや態度を身につけようとしている。距離測量の器具や距離の測定方法に関心を持ち、みずから進んで器具の取り扱いや距離の測定に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>・ トータルステーションやGNSS、準天頂衛星システム、VLBIなどの新しい測量技術に関心を持ち、その測量技術習得に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>・ 水準測量用のレベルや標尺などに関心をも</p>
	5	距離測量			・ 器械・器具の取り扱い	
	6	水準測量			<p>・ 距離の測定</p> <p>・ 測距機器による距離の測定</p> <p>・ 水準測量の用語</p> <p>・ 水準測量の器械、器具</p> <p>・ 水準測量の方法</p>	

						<p>ち、器具の取り扱い方や測定方法を理解し、その知識と技術を身につけようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より高い測定精度やより迅速な測定を実現するための創意工夫を行うことができる。 <p>(c)</p>
二 学 期	7	角測量	教科書、 電卓	45	・角測量と測角 器械	<p>・角測量に関する学習や測量実習を通して、角測量に関する基本的な知識、概念を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測角器械のすえつけや視準作業が正確かつ迅速に行うことができるとともに、角測量の基本的な観測方法と計算方法を理解し、身につけている。 ・測量における角測量の意義や役割を理解し、角測量に関する知識や計算能力を身につけている。 ・トラバース測量の外業として、適切な精度を有する距離測量や角測量を行うことができる。また、閉合トラバース測量や結合トラバース測量における角誤差の算定、角誤差の調整の手順を正しく理解している。 ・方位角、方向角を正しく理解し、方位角、緯距および経距の計算などの計算手順を理解している。閉合誤差や精度の考え方を正しく理解している。閉合誤差の調整方法を正しく理解している。(a) ・角測量用のセオドライトやトータルステーションなどの測角器具の機能および特徴と測量方法を理解し、求められる測定精度に応じて、使用する測量器具や測量方法を的確に分析判断して効率的に使用することができる。 ・測定したデータなどから、平均角、誤差などを算出・分析・判断する能力を身につけ、実習報告書を作成や発表することができる。 ・セオドライトやトータルステーションなどの測量器具の役割を理解し、各器具の使用方法に関して具体的に判断しようとしている。 ・観測データや閉合誤差の状況から、誤差の原因や発生箇所などについて、具体的に思考し判断することができる。 ・トラバース測量の計算結果を適切な計算表にまとめ成果図面を作成することができる。 ・トラバース測量の成果の応用方法を理解している。(b) ・角測量の器具や角の測定方法に関心を持ち、みずから進んで器具の取り扱いや角の測定に意欲的に取り組もうとしている。 ・角測量用のセオドライト・トータルステーションなどに関心を持ち、器具の取り扱い方や測定方法を理解し、その技術を身につけようとしている。 ・より高い測定精度やより迅速な測定を実現するための創意工夫を行うことができる。 ・トラバース測量に関して関心を持ち、この測量には距離測量と角測量の総合的な概念が必要であることを意欲的に探求している。 ・セオドライトやトータルステーションなどを利用した測量技術に関心を持ち、みずから進んでそれらの器具を使って、意欲的に距離や角の測定に取り組もうとしている。 ・より高精度な測量にはどのような工夫や注
	8				・測角器械の構造	
	9				・すえつけと視準	
	10				・検査と調整	
	11				・角度の観測	
		トラバース測量			・機械誤差	
					・トラバース測量の概要	
					・トータルステーション	
					・トラバース測量の外業と内業	
					・結合トラバース	

						意が必要となるかを考え、それを実践しようとしている。(c)
三 学 期	12	細部測量	教科書 電卓	30	<ul style="list-style-type: none"> ・トータルステーションを用いた細部測量 ・トータルステーションを用いた測点の測設 ・GNSSを用いた細部測量 ・平板を用いた細部測量 ・誤差の種類 ・測定値の計算処理 ・測定条件が同じ場合の計算 ・測定条件が異なる場合の計算 	<p>・トータルステーションによる細部測量の観測手順や測点の測設方法を正しく理解し、測定データを用いた計算を正しく行うことができる。</p> <p>・GNSSを用いた各種観測方法の特徴を理解し、GNSSを用いた細部測量の方法と手順を正しく理解している。</p> <p>・平板測量の標定作業を正確かつ迅速に行うことができる。また、平板測量に関する基本的な測定方法および図面の作成要領を身につけている。</p> <p>・実際に測定した角や距離などのデータを用いて、誤差を計算処理して整理し、観測データの結果の良否を分析判断できる能力を身につけている。</p> <p>・各種測量に関する学習や実際の距離や角などを測る実習を通して、誤差に関する基本的な概念やその計算方法および取り扱い方を習得している。(a)</p> <p>・細部測量で観測対象とするべき地物・地形を正しく判断できる。トータルステーションやGNSSを用いた細部測量や測点の測設において、観測結果の良否を正しく判断でき、観測結果を計算表・図面などでの的確に表現できる。</p> <p>・平板やアリダードなどの平板測量器具の機能・特徴を理解するとともに、作成した図面から測定結果の良否を分析・判断できる能力を身につけている。</p> <p>・測量における各種の誤差を処理する方法を理解し、誤差の計算およびその取り扱い方を判断して処理することができ、実習報告書などで適切に報告できる。(b)</p> <p>・トータルステーションやGNSSを用いた細部測量や測点の測設の手順・方法に関心を持ち、みずから進んで器具の取り扱い方や図面の作成に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>・平板測量の器具や平板による測定方法に関心を持ち、みずから進んで器具の取り扱い方や図面の作成に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>・測量における各種の観測には、常に誤差がともなうことを理解しようとしている。各種誤差の起こる原因および誤差を消去する測量方法に関心を持ち、過失を防ぐ観測方法や定誤差を取り除くための観測方法を理解し、その知識や技術を身につけようとしている。(c)</p>
	1					
	2					
	3	測量の誤差				

合計 105 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	土木構造設計	単位数	3	学年	1	科	土木工学科
使用教科書	「土木構造設計1」（実教出版 工業 751）								
補助教材等	担当者作成プリント								

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、土木構造物の設計に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 土木構造設計について部材や構造物に作用する力を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 土木構造物の構造や設計に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 安全で安心な土木構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・定期考査において一定の基準点以上を得ることが重要となる。
- ・高校入学してから初めて学ぶ「専門科目」であるため、全員が同じスタートとなる。そのため、各自の積極的な授業への取り組み、参加を期待する。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	土木構造物について部材や構造物に作用する力を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	土木構造物の構造や設計に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	安全で安心な土木構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回） ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回） ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言内容 ・行動観察 ・授業への取り組み

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	構造物と力	教科書、 電卓	30	・ 構造物の基本形状と種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の土木構造物の種類、形状をよく知っており、その働きや構造物に作用する力について十分理解している。また、力の定義、力の三要素、作用反作用の法則など、力に関する基礎的な知識・技術を有し、よく理解している。 ・ 力の釣り合いの3条件を使って未知の力を求める計算式を作り、その大きさを求めることができる。 ・ 力の合成と分解および合力や分力の計算において、水平分力と鉛直分力の意味を理解し、その計算や図示を確実に行うことができる。 ・ 梁の支点構造の違いについて、その特徴、機能をよく理解しており、各種の梁の構造とその特徴について十分な知識がある。また、力の釣り合いによる反力の求め方をよく理解している。静定構造物へ応用する知識と技術を有している。 ・ 力の釣り合いから単純梁の鉛直反力や水平反力を確実に求めることができる。また、単純梁以外の静定梁や、梁以外の静定構造物についても、同様に力の釣り合いから反力を求める応用力を備えている。(a) ・ 構造物によく使われる棒状部材が、使い方によって柱となったり、梁となったりすることが判断できる。また、構造物を構成する各部材が梁の働きをするのか、柱の働きをするのか考察し判断して考え方を的確に表現できる。 ・ 未知の力の大きさや位置を求めるために力の釣り合いの3条件をどのように使えばよいか判断できる。 ・ この原理を応用している道具にはどのようなものがあるか気がつける。また、大きな力を得ようとしているか小さな力を得ようとしているか判断できる。 ・ 梁の支点の構造から、鉛直反力、水平反力やモーメントの反力など、どのような反力が生じるか考察できる。 ・ 支点の数や種類、ヒンジの数やその配置箇所を考察し梁の種類を判断して考え方を的確に表現できる。(b) ・ 各種の土木構造物の種類、形状とその働きを主体的に学ぼうとし、身のまわりにある土木構造物の具体例を自ら進んで調べようとする。また、構造物に作用する力にはどのようなものがあるかを意欲的に知ろうとする。 ・ 各種の梁の構造とその特徴を知ろうとする。また、梁の支点構造の違いについて、その特徴、機能および生じる反力の種類を理解しようとする。 ・ 静定梁の反力の求め方を主体的に学ぼうとする。(c)
	5				・ 構造物に作用する力	
	6	構造物の反力			<ul style="list-style-type: none"> ・ 力の釣り合い ・ 支点の種類と梁の種類 ・ 静定梁の反力 ・ その他の静定構造物の反力 	
二 学 期	7	部材の内力	教科書、 電卓	45	・ 軸方向の内力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外力によって構造物内部に内力が生じるメカニズム、とくに力の釣り合い、作用反作用の法則を混同せずに理解している。 ・ 集中荷重・等分布荷重・等変分布荷重などが作用した場合の内力の分布について、それぞれの形状の特徴をよく理解している。 ・ 単純梁について集中荷重・等分布荷重・等変分布荷重などが作用した場合、それによって生じるせん断力・曲げモーメント・軸方向力などの内力を確実に求めることができる。また、各内力の分布図についても、正確に丁寧に描くことができる。 ・ 単純梁、張出し梁、間接荷重梁、片持梁、ゲルバー梁などの各種の梁について、その構
	8				・ 軸方向以外の内力	
	9	梁を解く			・ 単純梁を解く	
	10				・ 張出し梁を解く	

	11				<ul style="list-style-type: none"> ・間接荷重梁を解く 	<p>造や内力の分布状況をよく理解し、それぞれの梁の特徴、利点などの知識を有している。また、荷重・せん断力・曲げモーメントなどの関連性について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単純梁で得た内力の知識を張出し梁、間接荷重梁、片持梁、ゲルバー梁などのその他の梁に応用し、せん断力、曲げモーメント、軸方向力などの内力を求めて、それらの内力分布図を正確に描くことができる。(a) ・外力とせん断力、曲げモーメント、軸方向力などの内力との違いを正確に認識し説明できる。 ・せん断力、曲げモーメント、軸方向力などの内力の違いにより、梁がどのように変形し、どのように破壊するかを考察して考え方を的確に表現できる。 ・単純梁を含む各種の梁について、その構造や内力の分布状況を比較し、それぞれの梁の特徴や利点を考察し説明できる。また、各種の梁について、その特徴から設置箇所など、どのような環境での利用が最良かを判断し、考え方を的確に表現できる。(b) ・外力によって構造物内部にどのような種類の力が生じているか知ろうとし、その求め方を主体的に学ぼうとする。また、単純梁の端部、中央部など、梁の部位による内力の生じ方の違い、荷重の種類による内力の生じ方の違いなどを積極的に知ろうとする。 ・単純梁以外の各種の梁について、その構造や内力の分布状況の違いを主体的に調べ、学ぼうとする。 ・個々に学んだせん断力、曲げモーメント、軸方向力などの相互の関連について積極的に知ろうとする。(c)
三 学 期	12 1 2 3	梁を解く 梁に生じる応力	教科書、 電卓	30	<ul style="list-style-type: none"> ・片持ち梁を解く ・ゲルバー梁を解く ・梁部材断面の性質 ・梁に生じる曲げ応力 ・梁に生じるせん断応力 ・梁の設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・単純梁、張出し梁、間接荷重梁、片持梁、ゲルバー梁などの各種の梁について、その構造や内力の分布状況をよく理解し、それぞれの梁の特徴、利点などの知識を有している。また、荷重・せん断力・曲げモーメントなどの関連性について理解している。 ・単純梁で得た内力の知識を張出し梁、間接荷重梁、片持梁、ゲルバー梁などのその他の梁に応用し、せん断力、曲げモーメント、軸方向力などの内力を求めて、それらの内力分布図を正確に描くことができる。 ・図心位置における断面二次モーメントが最小であり、図心軸を中心として部材の破壊が生じることを理解している。 ・断面一次モーメントや断面二次モーメントなどの部材断面の諸性質を理解している。 ・曲げ応力、せん断応力の発生のしくみや、曲げ応力が部材断面の上下縁で最大となり、せん断応力が中立軸で最大となることを理解している。 ・梁の設計方法の基本的な知識と技術を有している。 ・断面一次モーメントを用いて複合断面の図心位置を求めることができる。また、長方形断面、複合断面、図心位置における断面二次モーメントを求めることができる。 ・曲げモーメントと断面二次モーメントから、曲げ応力を求めることができる。さらに、せん断力と断面一次や二次モーメントから、せん断応力を求め、曲げ応力の分布、せん断応力の分布を図示する事ができる。(a) ・単純梁を含む各種の梁について、その構造

					<p>や内力の分布状況を比較し、それぞれの梁の特徴、利点を考察し説明できる。また、各種の梁について、その特徴から設置箇所など、どのような環境での利用が最良かを判断し、考え方を的確に表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梁の縦長と横長の長方形断面の曲げに対する強さの違いを考察し、部材断面の諸性質との関連を理解できる。また、いろいろな構造物の有利な部材断面形状を判断し、説明できる。梁の曲げやせん断による変形を考察し、曲げ応力やせん断応力を理解できる。さらに、曲げ応力・せん断応力が、部材断面のどの位置で最大になるかを判断し、考え方を的確に表現できる。(b) ・単純梁以外の各種の梁について、その構造や内力の分布状況の違いを主体的に調べ、学ぼうとする。 ・個々に学んだせん断力や曲げモーメント、軸方向力などの相互の関連について積極的に知ろうとする。 ・部材の断面形状の違いによって、部材の強さが異なることを知ろうとし、断面二次モーメントなどが、どのように部材の強さと関連するのか理解しようとする。 ・梁に荷重が作用してせん断力および曲げモーメントなどの内力が生じた場合、部材断面にどのような応力が生じ、その応力分布がどのようなになるか知ろうとする。 ・梁の設計の考え方および手順について主体的に学ぼうとする。(c)
--	--	--	--	--	--

合計 105 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	実習	単位数	2	学年	2	科	土木工学科
使用教科書		「土木製図」（実教出版 工業 706）							

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・2グループに分かれ、ローテーションして実習を行う。
- ・「製図」では、手描きによる図面作成とパソコンを用いたCAD製図により課題に取り組む。
- ・一年次に習得した製図に関する読図および作図の知識技術を土台に、さまざまな土木構造物の作図課題に取り組む。
- ・「製図」は、課題の図面ごとに習得基準を設け、その習得が確認された者に対して、理解度や課題の正確性および明瞭性を中心に、授業時間における取り組み状況などを含めて三つの観点から総合的に評価する。
- ・「測量」では作業着を必ず着用し、外業においてはサンダル等素足が露出するものは厳禁とする。
- ・各内容で、レポートや実験のまとめ、課題等を期限までに作成し提出する。
- ・「測量」は、所定の精度が得られない場合、放課後に観測活動に取り組みデータを収集する。
- ・使用する観測機器や道具等は高価なものが多いため、丁寧に取り扱うよう心がける。
- ・一瞬の気の緩みや不注意、確認不足が危険な事故や破損などにつながるため、緊張感を持って実習に臨むように心がける。
- ・図面やデータのまとめおよび課題等は、期限内の提出に向け計画性をもって取り組むこと。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・正確なデータ収集と精度 ・データ整理の正確さ ・考察内容 ・レポート、図面、計算書 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの考察 ・プレゼンテーション ・適確な機器の操作と作業方法 ・予測行動と対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・他者との協調、協同、協力する態度と姿勢 ・作業着、装備等の着用 ・道具の取り扱い ・気づきと実践状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4		教科書、 電卓、 製図台、 パソコン、 観 測 機 器ほか	20	①測量の外業と 内業 ・トランシット による閉合トラ バースの観測 (観測とデータ 整理) ・トータルステ ーションによる 閉合トラバース の角測量と距離	・ 正確なデータ収集と精度、データ整理の正確 さ、考察内容、レポートの充実度と内容、図面 の精度と明瞭性、計算書の正確さと明瞭性(a) ・ レポートの考察内容、プレゼンテーション(理 解の度合いと説明の明解さ、適確な機器の操作 と作業の様子、予測行動と対応の状況(b) ・ 授業に対する意欲と態度、他者との協調・協 同・協力する態度と姿勢、作業着や装備等の着 用状況、道具の取り扱いの様子(正確さと丁寧 さ)、広い視野や関心による気づきと行動の様 子(c)
	5					
	6					
二 学 期	7		教科書、 電卓、 製図台、 パソコン、 観 測 機 器ほか	30	測量 (観測とデータ 整理) ・路線測量 (トータルステ ーションを用い た単心曲線の設 置) ②製図 ・土木構造物の 製図 以上の内容を2 グループでロー テーションしな がら実施する。	・ 正確なデータ収集と精度、データ整理の正確 さ、考察内容、レポートの充実度と内容、図面 の精度と明瞭性、計算書の正確さと明瞭性(a) ・ レポートの考察内容、プレゼンテーション(理 解の度合いと説明の明解さ、適確な機器の操作 と作業の様子、予測行動と対応の状況(b) ・ 授業に対する意欲と態度、他者との協調・協 同・協力する態度と姿勢、作業着や装備等の着 用状況、道具の取り扱いの様子(正確さと丁寧 さ)、広い視野や関心による気づきと行動の様 子(c)
	8					
	9					
	10					
三 学 期	11		教科書、 電卓、 製図台、 パソコン、 観 測 機 器ほか	20		・ 正確なデータ収集と精度、データ整理の正確 さ、考察内容、レポートの充実度と内容、図面 の精度と明瞭性、計算書の正確さと明瞭性(a) ・ レポートの考察内容、プレゼンテーション(理 解の度合いと説明の明解さ、適確な機器の操作 と作業の様子、予測行動と対応の状況(b) ・ 授業に対する意欲と態度、他者との協調・協 同・協力する態度と姿勢、作業着や装備等の着 用状況、道具の取り扱いの様子(正確さと丁寧 さ)、広い視野や関心による気づきと行動の様 子(c)
	12					
	1					
	2					
	3					

合計 70 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	工業情報数理	単位数	2	学年	2	科	土木工学科
使用教科書	「工業情報数理」（実教出版 工業 718）								
補助教材等	担当者作成プリント								

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・成績不振者に対しては、課題・補習等を課す場合がある。わからない所があったら質問するなどし、すぐに解決すること。
- ・練習問題は必ず自分の力で解くこと、わからないところは友達に質問するなどし、友達と一緒に考えることも大切。しかし、自分も納得する（理解する）まで考えること。

を受験する。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
主な評価方法	・ 单元ごとに行う小テスト	・ ワークシート ・ 課題プリント	・ 授業中の発言内容 ・ 行動観察 ・ 授業への取り組み

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	産業社会 と情報技術 コンピュータの基 本操作とソフトウ ェア	教科書、 パ ソ コ ン	20	・ コンピュータ の構成と特徴	・ 情報化の進展が産業社会に及ぼす影響などを 踏まえて理解するとともに、 関連する技術を身 に付けることができる。(a)
	5				・ 情報化の進展 と産業社会	・ 情報の管理や発信に着目して、 産業社会と情 報技術に関する課題を見いだすとともに解決策 を考え、 科学的な根拠に基づき結果を検証し改 善することができる。(b)
	6				・ 情報化社会の 権利とモラル	・ 産業社会と情報技術について自ら学び、 情報 及び情報手段の活用主体的かつ協働的に取り組 むことができる。(c)
					・ 情報のセキュ リティ管理	・ コンピュータシステムについて情報手段とし ての活用を踏まえて理解するとともに、 関連す る技術を身に付けることができる。(a)
					・ 基本操作とソ フトウェア	・ コンピュータの動作原理や構造に着目して、 課題を見いだすとともに解決策を考え、 科学的 な根拠に基づき結果を検証し改善できる。(b)
					・ コンピュータ の基本操作	・ コンピュータシステムについて自ら学び、 情 報技術の活用主体的かつ協働的に取り組むこ とができる。(c)
					・ ソフトウェア の基礎	
					・ アプリケーシ ョンソフトウェア	
二 学 期	7	ハードウ ェア	教科書、 パ ソ コ ン	30	・ データの表し 方	・ 2進数と 16 進数について理解し、 四則計算 や変換および計算ができる。
	8				・ 論理回路の基 礎	・ 基本論理回路を用いて、 加算回路など応用回 路を構成する技術を習得している。(a)
	9	コンピュ ータネッ トワーク			・ 処理装置の構 成と動作	・ 応用回路について、 論理的に考察できる。コ ンピュータにおけるハードウェアの役割とし くみを理解し、 説明できる。(b)
	10				・ ネットワーク の概要	・ 基本論理回路とその応用回路、 処理装置と周 辺装置に関心があり、 意欲的に学習に取り組 み、 学習態度は真剣である。(c)
		コンピュ ータ制御			・ ネットワーク の通信技術	・ データ通信システムと情報通信ネットワ ークの概要や使用機器について理解し、 簡単な接 続ができる。使用するプロトコルについて理解 し、 簡単な設定や操作などの技術を習得してい る。(a)
	11				・ コンピュータ 制御の概要	・ データ通信や家庭のインターネット接続や コンピュータ実習室のネットワークに関心が ある。(c)
					・ 制御プログラ ミング	

					・組み込み技術	
三 学 期	12	数値処理	教科書、 パソコン	20	・単位と数値処理	・数値処理やデザインなど情報処理の意義や役割及び理論を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。(a) ・課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善できる。(b) ・自ら学び、情報処理技術の活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。(c)
	1				・実験と数値処理	
	2	情報デザイン			・モデル化とシミュレーション	
	3				・デザイン、情報、造形の基礎 ・デザインと表現 ・デザインの実際	

合計 70 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	測量	単位数	2	学年	2	科	土木工学科
使用教科書	「測量」（実教出版 工業 715）								
補助教材等	担当職員用意プリント等								

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、測量技術を用いた土木工事に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 測量について実際の土木工事を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 測量に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 安全で安心な社会基盤を整備する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・定期考査において一定の基準点以上を得ることが重要になる。
- ・授業には必ず関数電卓を用意しておく。
- ・演習プリントなど配布されるものはファイルに綴じるなどして管理する。
- ・計算が多いので、計算過程を良く理解するよう努力する。
- ・座学で学んだ内容を実習で発展的に理解し習得する。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	測量について実際の土木工事を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	測量に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	安全で安心な社会基盤を整備する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回） ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回） ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言内容 ・行動観察 ・授業への取り組み

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	面積及び 体積	教科書 電卓	20	・ 面積の計算	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の土地の面積や土量を求める測量方法と計算処理の技術を習得している。また、面積や土量（体積）を求める方法を数学的に理解するとともに、その知識を活かして、測量における面積や土量（体積）の求め方を理解している。 ・ 基準点測量に関する基本的な概念と役割を理解し、観測データを整理し計算処理することができる知識・能力を身につけている。 ・ GNSS やトータルステーションを操作して、基準点測量に関する一連の観測作業を行える。 ・ 基準点測量における偏心観測の必要性や偏心観測の意義を理解しているとともに、さまざまな条件においても観測データから偏心補正計算が行える能力を身につけている。 ・ 基準点測量における水平位置の簡易な調整計算方法と高低計算方法を正しく理解し、計算することができる。 ・ 平面直角座標系と国土地理院成果表の概念について、正しく理解している。(a) ・ 各種の形をした土地の面積や土量を求める測量方法および計算のしかたに関心をもってしている。また、土地の面積や土量を求める測量方法や計算方法を理解し、その知識や技術を活かして計算結果のデータを適切に判断し、計算式や計算表などの適切な形で示すことができる。 ・ 基準点測量は GNSS やトータルステーションなどを用いて行われていることを理解し、この測量を行うために必要なデータの取得方法および基本的な測量技術を身につけている。 ・ 基準点測量における水平位置の簡易な調整計算方法と高低計算方法を正しく理解し、その計算結果に含まれる誤差について分析・判断して誤差の調整を行うことができる。 ・ 実際の観測では、「一公共測量一作業規程の準則」とも関連することを理解し、観測したデータを整理し計算して実習報告書を作成することができる。(b) ・ 境界で囲まれた土地の面積を求める方法や数学的な原理との関連に関心をもち、みずから進んで面積の計算方法を理解し、面積の計算に意欲的に取り組もうとしている。また、土量（体積）を求める方法や数学的な原理との関連に関心をもち、みずから進んで土量の計算方法を理解し、土量の計算に意欲的に取り組もうとしている。 ・ 基本測量および公共測量に関する基準点測量やその体系に関心をもち、器具の取り扱い方や測定方法を理解し、その知識や技術を身につけようとしている。 ・ GNSS やトータルステーションなどを用いた測量技術に関心をもち、みずから進んでそれらの器具を使って、意欲的に基準点測量に取り組もうとする心がまえや態度を身につけようとしている。 ・ 基準点測量における水平位置の簡易な調整
	5				・ 土量（体積）の計算	
	6	基準点測量			<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準点と基準点測量 ・ 基準点測量の方法と方式 ・ 測量計画 ・ 踏査選点、測量標設置、観測 ・ 角の偏心観測 ・ 基準点測量に関する計算 	

						<p>計算方法と高低計算方法について、より積極的に理解を深めようと意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>・国土地理院成果表について、みずから進んでより深く学ぼうとする姿勢を示している。(c)</p>
二 学 期	7	地形測量	教科書、 電卓	30	・地形図と数値 地形図データ	<p>・地形測量における測量方法と概略高低を正しく理解し、地性線、地形や等高線などの地形測量に必要なデータの取得方法および基本的な測量技術を身につけている。</p> <p>・航空レーザ測量や車載写真レーザ測量などの新しい測量技術について正しく理解する。数値地形モデルの概念や特徴などについて正しく理解している。</p> <p>・地図編集に関する基礎的な概念を理解し、図式に関する知識を身につけている。また、空中写真の性質を理解し、撮影されている物体の位置、大きさや高さなどを測定・計算する能力を身につけている。</p> <p>・写真測量の作業順序を理解し、写真測量に必要なデータの取得および基本的な測量方法を身につけている。また、写真の判読および判読に必要な知識をもち、提供された空中写真を利用する能力を身につけている。</p> <p>・地理情報システムと深く関連する写真地図に関する正しく理解している。</p> <p>・路線測量における単心曲線・緩和曲線・縦断曲線などの設置に必要な用語・記号・図などに関する知識をもち、路線測量に関する基本的な内容を理解し、計算手順や曲線の設置方法、設置手順などを身につけている。</p> <p>・路線測量の作業順序を明確に理解し、トータルステーションの利用などの効率的な測量手法を習得している。また、曲線の測設手順を習得して測設作業を行うことができ、これに必要な諸計算が行える。(a)</p> <p>・地形測量における地形および地物の描き方や、等高線の性質を理解し、等高線を迅速かつ正確に描く能力を身につけ、報告書や図面を作成することができる。さらに、国土地理院の定める図式を正しく理解して地形図から詳細な地形を読み取れるだけではなく、等高線を利用して、断面図や等勾配線など実際の土木工事で必要となる図面を作成し、貯水量や土量計算を行い報告書などを作成することができる。</p> <p>・空中写真測量に使用される器具の役割を理解し、空中写真測量の縮尺や空中写真の視差差によって高低差を求めることができる。また、空中写真測量に関して数学的な原理を理解し、写真に写っている物体の位置・形・大きさおよび高さなどを求めるための観測値の取り扱い方を分析・判断したりすることができる。</p> <p>・空中写真の判読において、写真測量に関する概要と基礎的な事項に関する知識をもっていると同時に、実習報告書などを作成できる。</p> <p>・平面線形について正しく理解し、単心曲線について、諸計算の進め方や測設方法、誤差の取り扱いなどに関して判断できる。</p> <p>・縦断曲線に関する諸計算の進め方や測設方法などについて正しく判断できる。</p> <p>・路線測量に関する諸計算に関して、計算結果</p>
	8				・地形測量	
	9				・現地測量と等高線	
	10				・航空レーザ測量と車載写真レーザ測量	
	11				・数値地図データの作成	
					・地図編集	
					・地形図の活用	
		写真測量			・写真測量の特徴と分類	
					・空中写真の性質	
					・空写真測量の視差差による高低測量	
					・空中写真測量	
		路線測量			・空中写真の判読と利用	
					・写真地図	
					・路線の曲線分類	
					・単心曲線の設置	

					<ul style="list-style-type: none"> ・緩和曲線の設置 ・縦断曲線の設置 ・道路の測量 	<p>を適切に表などで示す能力を習得し、図面を作成して示すことができる。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形測量に関する測量技術に関心を持ち、地形測量用の各器具の使用上の役割を具体的に判断し、みずから進んでそれらの器具を使って、意欲的に地形測量に取り組もうとする心がまえや態度を身につけようとしている。 ・航空レーザ測量や車載写真レーザ測量などの新しい測量技術の多方面への応用について、みずから進んで知識や技術を深めようとしている。 ・図式を理解するため、実際の地形図に関心を持ち、地形図の読図に意欲的に取り組もうとしている。 ・写真測量および空中写真測量が行われている方法などに関心を持ち、写真測量の特徴や概要ならびに長所・短所を理解し、その知識や技術を身につけようとしている。 ・空中写真測量に関して数学的な原理との関連に関心を持ち、写真に写っている物体の位置・形・大きさおよび高さなどを求めることに意欲的に取り組もうとしている。 ・地理情報システム (GIS) と深くかかわる写真地図に関する知識や術を深め、コンピュータを利用した写真地図の利活用について、みずから意欲的に取り組もうとしている。 ・道路設計や建設に必要な路線測量に関する技術や計算方法に関心を持ち、道路設計に必要な平面線形や縦断線形の記号、計算手順、測設手順を意欲的に習得しようとする心がまえや態度を身につけようとしている。 ・路線測量に関する諸計算の計算や、図面作成する場合において、より迅速により正確に作成できるよう創意工夫している。(c)
三学期	12 1 2 3	河川測量 測量技術の応用と自然災害	教科書 電卓	20	<ul style="list-style-type: none"> ・平面測量 ・高低測量 ・流量測定 ・i-Construction ・GIS (地理情報システム) ・バーチャルリアリティ ・リモートセンシング ・測量結果を活用した自然災害 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川測量の意義や役割を理解し、河川測量に関する知識や計算方法などの知識や能力を身につけている。また、河川測量における作業順序を明確に理解し、その知識と技術を活かして、河川測量に必要なデータの取得および基本的な測量方法を身につけている。 ・流速と流量の算定方法を習得している。 ・河川測量に関する学習や測量実習を通して、河川測量に関する基本的な概念やデータの取得方法およびそのデータの整理方法を理解している。 ・i-Construction の概念とそれを支える測量技術との関連性について正しく理解するとともに、なぜ i-Construction が提唱されているかについて理解している。 ・ドローンや3次元レーザスキャナを用いた測量の特徴や有用性について、正しく理解している。 ・地理情報システム (GIS) やバーチャルリアリティ (VR)、リモートセンシングなどの測量技術は、従来の測量技術にコンピュータシステムを応用して実現できていることを理解している。コンピュータを操作して、地理情報システム (GIS) やバーチャルリアリティ (VR)、リモートセンシングのデータを取り扱える。測量の技術が防災へ応用されていることを理解し

				対策	<p>ている。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川測量において距離標設置の必要性、水準基標設置測量、縦断測量、横断測量、深淺測量の果たす役割を理解し、観測データを計算処理できる知識と能力をもっており、観測結果の取り扱い方を具体的に思考・判断したりすることができる。 ・流量測定に必要な流速の測定方法および流積算定方法の知識を習得し、観測結果の取り扱い方を具体的に思考・判断できる。 ・測量成果を図表にまとめ、図面を作成できる。また、ドローンや3次元レーザスキャナを用いた測量の結果から、コンピュータを操作して3次元点群データファイルなどの作成を経て、表や図面にその成果をまとめることができる。 ・地理情報システム（GIS）やリモートセンシングの成果として示される図表から、新たにさまざまな情報を読み取り判断できる。 ・地理情報システム（GIS）に代表されるような、測量に関するコンピュータ操作を判断しながら進めることができ、適切な図表を成果として作成できる。(b) ・河川測量用の器械や器具およびその測量方法などに関心をもち、器具の取り扱い方や測定方法を理解し、その知識や技術を意欲的に身につけようとしている。また、河川測量の果たす役割に関心をもち、データの取得方法や計算方法の習得にみずから進んで取り組もうとしている。 ・i-Construction の概念とそれに関連する測量技術について正しく理解するとともに、意欲的に i-Construction に関連するさまざまな知識や技術を学ぼうと努力している。 ・ドローンや3次元レーザスキャナを用いた測量の特徴や有用性について正しく理解するとともに、その測量技術について、意欲的に学び応用力を高めようと努力している。 ・地理情報システム（GIS）やバーチャルリアリティ（VR）、リモートセンシングなどのコンピュータシステムを応用した測量技術について、より高度な知識・技術を意欲的に学ぼうと努力している。 ・測量技術が防災に関していろいろな形で応用され、実用化されていることを理解するとともに、みずからの居住地周辺での防災情報について、より深く調べ家族・友人などへ伝えるなど高い防災意思を意欲的に示している。(c)
--	--	--	--	----	--

合計 70 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	土木構造設計	単位数	1	学年	2	科	土木工学科
使用教科書	「土木構造設計1」（実教出版 工業 751）								
補助教材等	担当者作成プリント								

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、土木構造物の設計に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 土木構造設計について部材や構造物に作用する力を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 土木構造物の構造や設計に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 安全で安心な土木構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・定期考査において一定の基準点以上を得ることが重要になる。
- ・授業には必ず関数電卓を用意しておく。
- ・演習プリントなど配布されるものはファイルに綴じるなどして管理する。
- ・計算が多いので、計算過程を良く理解するよう努力する。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	土木構造物について部材や構造物に作用する力を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	土木構造物の構造や設計に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	安全で安心な土木構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回） ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回） ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言内容 ・行動観察 ・授業への取り組み

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	応力と材料の強さ	教科書 電卓	10	・ 応力とひずみ	<p>・鋼材やコンクリート材料の変形特性の知識を有しており、比例限度・弾性限度・降伏点およびフックの法則、弾性係数などの材料特性の意味を理解している。</p> <p>・部材の設計における許容応力度および安全率の必要性和意味を理解している。</p> <p>・応力、ひずみの意味を理解し、それらの値を求めることができる。また、フックの法則から、材料の弾性係数を求めたり、その逆の、応力による材料の伸び縮みを求めたりできる。</p> <p>・柱に偏心荷重が作用すると、軸方向圧縮力のみでなく曲げモーメントも生じ、中央三分点の外側に荷重の作用位置がある場合は、断面には圧縮応力だけでなく、引っ張り応力が生じることを理解している。</p> <p>・長柱では断面図心に荷重が作用しても、短柱が圧壊するよりも弱い荷重で座屈が起こり、曲げ破壊が生じることを理解している。</p> <p>・短柱および長柱の区別をした上で、短柱では断面図心位置に荷重が作用した場合や、偏心荷重が作用した場合に生じる圧縮応力を求めることができる。</p> <p>・長柱では柱の換算長を求めて、座屈荷重を計算することができ、簡単な柱の設計ができる。</p> <p>(a)</p> <p>・各種材料の応力ひずみ曲線を考察し、応力とひずみの関係、弾性変形、塑性変形などの材料特性の持つ意味を理解し、説明できる。</p> <p>・部材に生じる応力と許容応力度の比較や安全率から、部材の安全性を判断し、考え方を的確に表現できる。柱に荷重が作用したとき、主として軸方向圧縮力が生じるが、偏心荷重の場合は作用位置と引っ張り力が生じるかどうかの関係を判断できる。</p> <p>・柱の変形や破壊の様子を観察して、柱の長さにより異なる壊れ方をすることに気づき、短柱と長柱を区別する考え方を的確に説明・表現できる。</p> <p>(b)</p> <p>・鋼材やコンクリートなどの建設材料の変形の特徴や強さの違いを自ら調べ理解しようとし、安全性との関連を知ろうとする。</p> <p>・許容応力度と安全率の考え方について知ろうとし、建設技術者としての構造物の安全性について、認識を深めようとする。</p> <p>・柱に荷重が作用したときに、内部にどのような応力が生じるのかを知ろうとする。</p> <p>・柱の破壊の様子、とくに柱の長さによって壊れ方が異なることを理解しようとし、適切な公式を使い安全な柱を設計する方法を主体的に学ぼうとする。</p> <p>(c)</p>
	5	柱			・ 許容応力度と安全率	
	6				・ 柱部材断面の性質	
二 学 期	7	トラス	教科書 電卓	15	・ トラスの種類と分類	<p>・各種のトラスについて、その名称・形状・特徴などをよく理解している。</p> <p>・トラスの各部材にはせん断力や曲げモーメントが生じず、軸方向力だけが生じることを理解している。</p> <p>・トラスの部材力を求める格点法と断面法について、特徴および利点をよく理解しており、これらを用いてトラスの各部材力を求めることができる。</p> <p>・たわみは、せん断力の影響によるものが微小で、曲げモーメントによるものが変形量の大部分を占めていることを理解している。また、部材の弾性係数が小さいほど、また、断面二次モーメントが小さいほど、たわみ角やたわみが</p>
	8	梁のたわ			・ トラスの部材力の計算	
	9				・ たわみ	

	10	み			<ul style="list-style-type: none"> ・単純梁のたわみとたわみ角 ・片持ち梁のたわみとたわみ角 	<p>大きくなることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単純梁や片持ち梁に集中荷重、等分布荷重、モーメントの荷重などが作用した場合の、たわみ角やたわみの大きさをモールの定理を用いて求めることができる。また、最大たわみの生じる位置を特定することができる。(a) ・トラスがどのような考えのもとに作られた構造かを理解し、なぜ長い支間の橋に適しているか、その理由を考察し、説明することができる。 ・荷重の作用によるトラスの変形から、おおよその各部材力の引張や圧縮を判断し、考え方を的確に表現できる。 ・トラスの形状や部材の位置により、核点法と断面法のいずれの解き方がより簡単になるか使い分けたり、理由を説明したりできる。 ・梁の構成材料の違い、断面形状の違いなどによるたわみの状況から、たわみの大きさを支配する要素が何であることを考察し、説明できる。また、設計上、梁のたわみを制限する場合に必要な事項が何であることを判断し、考え方を的確に表現できる。(b) ・トラスの種類・構造・特徴を主体的に学ぼうとし、どのような使われ方をしているかを調べようとする。 ・トラスに荷重が作用した場合に、各部材にどのような力が生じるか理解しようとし、その求め方を進んで学ぼうとする。 ・梁が荷重の作用によってたわむ現象を自ら調べ、梁がなぜたわむか、また、たわみ角・たわみの大きさの求め方を学ぼうとする。 ・梁のたわみが最も大きくなる位置や、たわみ角とたわみの関係を知ろうとする。(c)
	11					
三 学 期	12	影響線	教科書 電卓	10	<ul style="list-style-type: none"> ・移動荷重と影響線 ・単純梁の影響線 ・張出し梁の影響線 	<p>大きくなることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動する単位荷重によって、反力やせん断力および曲げモーメントなどの影響線図が描かれることをよく理解している。 ・せん断力図や曲げモーメント図などの内力の分布図と、影響線図の違いをよく理解している。 ・単純梁の影響線を基本として、張出し梁の影響線を描くことができる。 ・影響線を用いて、集中荷重や等分布荷重などの特定の荷重が作用した場合の支点反力やせん断力および曲げモーメント影響線を用いて、連行荷重等の移動荷重が作用した場合の最大反力や最大せん断力および最大曲げモーメントとその位置を求めることができる。(a) ・単純梁や張出し梁について、それぞれの影響線の形状を比較し、梁の特徴、利点を考察し、説明できる。 ・影響線の形状から、梁にとって最も不利な荷重の載荷位置を判断し、梁の安全についての考え方を的確に表現できる。(b) ・単純梁の影響線の描き方を知ろうとし、それを利用した反力やせん断力および曲げモーメントなどの求め方を主体的に学ぼうとする。また、最大曲げモーメントや絶対最大曲げモーメントの考え方と求め方を理解しようとする。 ・張出し梁の影響線の描き方や利用方法を学ぼうとする。(c)
	1					
	2					
	3					

合計 35 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	土木施工	単位数	2	学年	2	科	土木工学科
使用教科書	「土木施工」（実教出版 工業 750）								
補助教材等	担当者作成プリント								

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、土木施工に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 土木施工について実際の土木事業を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 土木施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 安全で安心な土木構造物を施工する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・定期考査において一定の基準点以上を得ることが重要になる。
- ・授業には必ず関数電卓を用意しておく。
- ・演習プリントなど配布されるものはファイルに綴じるなどして管理する。
- ・授業中は積極的に発言し、議論を深めることを重要視します。
- ・成績不振者に対しては、課題・補習等を課す場合がある。わからない所があったら質問するなどし、すぐに解決すること。
- ・練習問題は必ず自分の力で解くこと、わからないところは友達に質問するなどし、友達と一緒に考えることも大切。しかし、自分も納得する（理解する）まで考えること。
- ・提出物は期日厳守で取り組み、取り組んだ内容を理解し、定期考査でその成果を示すように。
- ・社会に出てからの仕事の進め方、仕事上の留意点、労働に関わる法規などキャリア教育的側面もあります。進路をイメージしながら受講しましょう。
- ・日頃から土木分野の仕事に興味を持ち、専門用語、業界用語の習得の参考にしましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	土木施工について実際の土木事業を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	土木施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	安全で安心な土木構造物を施工する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回） ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回） ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言内容 ・行動観察 ・授業への取り組み

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学習内容	評 価 規 準
一 学 期	4	土木材料	教科書 電卓	20	土木材料	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な土木材料について、一般的な性質や日本産業規格などを理解し、それを土木工事に活用できる知識を身につけている。また、新しい土木材料の開発に対して、常に情報を収集し、その知識と技術を理解している。 ・土工に関する基本的用語や土量の変化について理解し、切土や盛土量を数値化すると共に土積曲線を作成することができる。また、実例の土積曲線を読み取ることができる。さらに、測量実習や実例から、土積曲線を作成し、適切な土量配分計画をまとめ、これらを基に実際の土工定規を作る技術を身につけている。 ・土工機械の特徴を理解し、作業条件に合わせた選定ができる知識を身につけている。また、土工機械の技能講習や実例を通して、土工機械の特徴を最大限生かせる技術を身につけている。
	5				<ul style="list-style-type: none"> ・土・岩石 ・木材 ・鉄鋼材料 ・歴青材料 	
	6	土工			<ul style="list-style-type: none"> ・土工 ・土工計画 ・土工機械 ・機械科土工の計画 ・土工の実施 	

						<ul style="list-style-type: none"> ・土工機械の選定について関心を持ち、作業能力や作業単価と関連させて、建設機械の組合せを意欲的に探求しようとする。 ・土工の代表的工法や管理方法について関心を持ち、探求しようとする。また、実例を通して、法面の保護、埋め立てなどの実例を調べる態度を身に付け、情報化施工技術の活用についても意欲的に取り組もうとする。(c)
二 学 期	7	コンクリート工	教科書 電卓	30	コンクリート工	<ul style="list-style-type: none"> ・セメント、骨材、水、混和材料について種類や品質などの知識を理解している。また、コンクリートの基本的構成材料と配合関係に関する基本的な性質や配合計算を理解し、その技術を身に付けている。さらに、フレッシュコンクリートと硬化したコンクリートの性質の違いを理解している。 ・コンクリート工事における基本的な施工方法を理解し、レディミクストコンクリートやコンクリートの劣化に対する知識を身に付けている。また、コンクリートの施工手順に沿って所要の品質を確保できる技術を身に付けている。 ・自然条件や施工条件の変化に対応したコンクリート施工について、その特色や工事方法について理解している。また、土木工事用コンクリート製品の活用法を理解している。さらに、特殊な条件下におけるコンクリートの活用について、工事方法を現場条件や環境に配慮しながら決定し、その技術を適切に活用している。 ・浅い基礎と深い基礎について理解し、実際の工事例を通して、それらの活用法を理解している。また、基礎工における安全対策や環境保全に関する知識を身に付けている。さらに、土留め工や杭基礎・ケーソン基礎工について、環境や安全対策について十分配慮し、その技術を適切に活用している。 ・それぞれの工法について特色や内容を理解し、砂質地盤や粘土地盤に適する工法を身に付けている。また、地盤の液性化現象に対応するための適切な技術を活用できる。(a) ・コンクリートの一定の品質を得るための材料や性質を理解できる。また、それを基にコンクリートの配合計算ができる。さらに、コンクリートにおいて所要の品質を得るための判断ができる適切なコンクリート工事の手順を理解し、実例を踏まえて、品質を高める考察ができる。また、維持管理における対処方法などの判断ができる。 ・各種のコンクリート及びコンクリート製品の活用について創意工夫する能力を身につけている。また、施工条件などによる最適なコンクリート製品の選定を判断することができる。 ・浅い基礎と深い基礎の分類を理解し、それぞれの具体的な基礎工の特色を技術的に考察できる。また、直接基礎・杭基礎・ケーソン基礎等の特色を理解し、図を用いて説明ができる。さらに、現場条件や環境に配慮して、安全対策に関する考察ができ、適切な工法の選定を判断することができる。 ・置換や脱水など基本的な地盤改良の原理について考察し、さまざまな地盤に対する技術的な判断ができる。(b) ・コンクリートがセメント、水、骨材などからつくられることに関心を持ち、それらの基本材料の性質や製法などを意欲的に探求しようとする。 ・本来異なる性質を持つセメント、水、骨材が
	8				・コンクリート用材料	
	9				・コンクリートの性質	
	10				・コンクリートの配合設計	
	11				・コンクリートの製造と施工	
		基礎工			<ul style="list-style-type: none"> ・各種コンクリートとコンクリート製品 基礎工 ・基礎工 ・直接基礎工 ・杭基礎工 ・ケーソン基礎工 ・地盤の改良工 	

						<p>適切な割合で混合することで、コンクリートとしての性質を発揮することに関心を持ち、その性質を十分生かすための配合方法を探求しようとする態度を身につけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート工事の施工手順や留意事項に関心を持ち、意欲的に実際のコンクリート工事の方法を探究しようとする。 ・特殊な条件下におけるコンクリートの特色に関心を持ち、構造物に適するコンクリートの役割について探求しようとする。また、身近な土木構造物について、JIS 規格のコンクリート製品が適用されていることに関心を示している。 ・基礎地盤と支持力の関係を関連付けて考察しようとすると共に、基礎の重要性を探求しようとする。 ・多くの土木構造物は基礎からなることに関心を示し、いろいろな基礎工について意欲的に探求し、事例を通して、その技術を身に付けようとする。 ・日本の地質の複雑さを理解し、軟弱地盤に対する改良工事に関心を示すと共に、新しい技術にも興味を持っている。(c)
三 学 期	12 1 2 3	舗装工	教科書	20	<p>舗装工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装 ・舗装の維持・修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・アスファルト舗装とコンクリート舗装の構造について第1章の材料と合わせて理解し、それぞれの舗装要綱に沿った施工方法について理解している。また、アスファルト舗装の維持・修繕について理解している。さらに、アスファルトやコンクリートの特徴を理解し、適切な舗装を選定する技術や、学校周辺の舗装を観察し、破損状況を考察して適切な補修・修繕方法を行う技術を身につけている。(a) ・表層から路床に至る構造について、適切な構造や施工方法を判断できる。また、アスファルト舗装とコンクリート舗装の選定、および交通量や現場条件から適切な工法と舗装厚を設計することができる。さらに、アスファルト舗装の破損の種類を判断し、適切な維持・修繕方法を考察できる。(b) ・身近な道路や歩道の舗装に関心を示し、それぞれの舗装の特質や施工方法を意欲的に探求しようとする。舗装後の維持の重要性に関心を持ち、また、その修繕について理解しようとする。(c)

合計 70 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	課題研究	単位数	3	学年	3	科	土木工学科
使用教科書		該当するテキスト							

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。
- (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・1～数名のグループに分かれ、テーマを設定し研究を行う。
- ・各グループには授業担当者が付くので、連絡や相談等をじゅうぶんにいき、慎重に研究を行う。
- ・研究成果のまとめとして定められた書式による報告書の作成、展示用パネルの作成、パワーポイントによるプレゼンテーションを行う。
- ・毎時、活動報告書（研究ノート）を作成し、本時の活動を振り返るとともに、次回に向けての課題を整理記入し各担当者へ提出する。
- ・欠席した場合は担当者に指示を仰ぐこと。
- ・進捗状況によっては放課後等の活動を行い対応する。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力が身についている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書（研究ノート）の内容 ・図面および計算書の内容 ・報告書、プレゼンテーション、展示パネル等の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けての提案、実践、反省の様子 ・危険予測と回避行動 ・報告書、プレゼンテーション、展示パネルなどの完成度 ・成果を他者へ伝える姿勢と工夫および内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・他者との協調、協同、協力する態度と姿勢 ・作業着、装備等の着用 ・道具の取り扱い ・気づきと実践状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4		教 科 書 ほか	30	<ul style="list-style-type: none"> ・課題テーマ、日程説明 ・課題テーマの決定及び準備 ・課題別テーマの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書（研究ノート）の内容(a) ・課題解決に向けての提案、実践、反省の様子や危険予測と回避行動 (b) ・授業への取り組みの様子、他者との協調、協同、協力する態度と姿勢、作業着、装備等の着用、道具の取り扱い、および、気づきと実践状況 (c)
	5					
	6					
二 学 期	7		教 科 書 ほか	45		<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書（研究ノート）の内容(a) ・課題解決に向けての提案、実践、反省の様子や危険予測と回避行動 (b) ・授業への取り組みの様子、他者との協調、協同、協力する態度と姿勢、作業着、装備等の着用、道具の取り扱い、および、気づきと実践状況 (c)
	8					
	9					
	10					
	11					
三 学 期	12		教 科 書 ほか	30	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめ ・レポート作成 ・発表会準備（プレゼンテーション、展示パネル） ・発表会（学科内） ・発表会（全校一斉） ・報告書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書（研究ノート）の内容、図面および計算書の内容、報告書、プレゼンテーション、展示パネル等の内容 (a) ・課題解決に向けての提案、実践、反省の様子、危険予測と回避行動、報告書、プレゼンテーション、展示パネルなどの完成度、成果を他者へ伝える姿勢と工夫および内容 (b) ・授業への取り組みの様子、他者との協調、協同、協力する態度と姿勢、作業着、装備等の着用、道具の取り扱い、気づきと実践状況 (c)
	1					
	2					
	3					

合計 105 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	実習	単位数	3	学年	3	科	土木工学科
使用教科書		該当するテキスト							

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・5グループに分かれ、ローテーションし実習を行う。
- ・実習では作業着を必ず着用し、外業においてはサンダル等素足が露出するものは厳禁とする。
- ・各内容で、レポートや実験のまとめ、課題等を期限までに作成し提出する。
- ・測量においては、所定の精度が得られない場合、放課後に観測活動に取り組みデータを収集する。
- ・実験や実習で使用する観測機器や道具等は高価なものが多いため、丁寧に取り扱うよう心がける。
- ・一瞬の気の緩みや不注意、確認不足が危険な事故や破損などにつながるため、緊張感を持って実習に臨むように心がける。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・正確なデータ収集と精度 ・データ整理の正確さ ・考察内容 ・レポート、図面、計算書 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの考察 ・プレゼンテーション ・適確な機器の操作と作業方法 ・予測行動と対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・他者との協調、協同、協力する態度と姿勢 ・作業着、装備等の着用 ・道具の取り扱い ・気づきと実践状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4		教科書、 電卓、 パソコン、測量 観測機器、実験 機器ほか	30	①トラバース測 量の外業と内業 ・トータルステ ーションによる 角測量と距離測 量 ・トラバース計 算および作図	・正確なデータ収集と精度、データ整理の正確 さ、考察内容、レポートの充実度と内容、図面 の精度と明瞭性、計算書の正確さと明瞭性(a) ・レポートの考察内容、プレゼンテーション(理 解の度合いと説明の明解さ、適確な機器の操作 と作業の様子、予測行動と対応の状況(b) ・授業に対する意欲と態度、他者との協調・協 同・協力する態度と姿勢、作業着や装備等の着 用状況、道具の取り扱いの様子(正確さと丁寧 さ)、広い視野や関心による気づきと行動の様 子(c)
	5				②水準測量の外 業と内業 ・レベルを用い	
	6					
二 学 期	7		教科書、 電卓、 パソコン測量 観測機器、実験 機器ほか	45	た高低測量およ び路線測量	・正確なデータ収集と精度、データ整理の正確 さ、考察内容、レポートの充実度と内容、図面 の精度と明瞭性、計算書の正確さと明瞭性(a) ・レポートの考察内容、プレゼンテーション(理 解の度合いと説明の明解さ、適確な機器の操作 と作業の様子、予測行動と対応の状況(b) ・授業に対する意欲と態度、他者との協調・協 同・協力する態度と姿勢、作業着や装備等の着 用状況、道具の取り扱いの様子(正確さと丁寧 さ)、広い視野や関心による気づきと行動の様 子(c)
	8				③情報処理実習 ・プレゼンテー ション実習 ・CADによる 作図	
	9				④材料実験 ・材料の物理的 性質 ・コンクリート の強度試験	
	10				⑤土質実験およ び応用測量	
三 学 期	11		教科書、 電卓、 パソコン、測量 観測機器、事件 機器ほか	30	・土の物理的性 質 ・土の強度 ・3Dレーザ ースキャナによる 観測	・正確なデータ収集と精度、データ整理の正確 さ、考察内容、レポートの充実度と内容、図面 の精度と明瞭性、計算書の正確さと明瞭性(a) ・レポートの考察内容、プレゼンテーション(理 解の度合いと説明の明解さ、適確な機器の操作 と作業の様子、予測行動と対応の状況(b) ・授業に対する意欲と態度、他者との協調・協 同・協力する態度と姿勢、作業着や装備等の着 用状況、道具の取り扱いの様子(正確さと丁寧 さ)、広い視野や関心による気づきと行動の様 子(c)
	12				以上の内容を5 グループでロー テーションしな がら実施する。	
	1					
	2					
	3					

合計 105 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	製図	単位数	2	学年	3	科	土木工学科
使用教科書		「土木製図」（実教出版 工業 706）							

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 工業の各分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・手描きによる図面作成とパソコンを用いたC A D製図により課題に取り組む。
- ・一、二年次に習得した製図に関する読図および作図の知識技術を土台に、さまざまな土木構造物の作図課題に取り組む。
- ・課題の図面ごとに習得基準を設け、その習得が確認された者に対して、理解度や課題の正確性および明瞭性を中心に、授業時間における取り組み状況などを含めて三つの観点から総合的に評価する。
- ・最終課題となる「卒業設計製図」については、三年次に履修する科目「土木構造設計」と連携して学習し、3年間のまとめとなる課題となるため評価の柱とする。
- ・課題に取り組むために、各自目標を定め、計画性をもって取り組むことが望ましい。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	土木分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。ものづくりにおける製図の意義や役割を理解し、土木製図に関する各分野の基礎的な知識と技術を理解し身に付け、図面の内容を理解するとともに、製図を正確・明りょう・迅速にかくことができる。	製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。土木製図に関する基礎的な知識と技術をもとに、製図に関する諸問題を自ら思考を深め、創意工夫し適切に処理することができる。	土木分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。土木製図に関する知識と技術について関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、活用しようとする実践的な態度を身に付けている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の完成状況 ・図面の正確さと明瞭性 ・線や記号の意味と使い方の理解度 	<ul style="list-style-type: none"> ・図面の正確さと明瞭性 ・読図能力 ・3次元的な理解の程度 ・図面の説明状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み状況 ・用具や機材の扱い ・作図技術の上達度合い ・完成までの計画性

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4		教科書、 製図用具、 パソコン	20	①手描きによる 製図 ・設計製図の基 本事項 ・材料と部材の 符号、鋼材の表 示 ・鋼構造設計製 図	・課題の完成状況、図面の正確さと明瞭性、線 や記号の意味と使い方の理解度(a) ・図面の正確さと明瞭性、読図能力、3 次元 的な理解の程度、図面の説明状況(b) ・授業への取り組み状況、用具や機材の扱い、 作図技術の上達度合い、完成までの計画性(c)
	5					
	6					
二 学 期	7		教科書、 製図用具、 パソコン	30	・鉄筋コンクリ ート構造設計製 図 ・卒業設計製図 ②CADによる 製図 ・CADの基本 操作 ・土木構造物の 製図 以上の2分野を 2グループに分 けローテーショ ンで実施する	・課題の完成状況、図面の正確さと明瞭性、線 や記号の意味と使い方の理解度(a) ・図面の正確さと明瞭性、読図能力、3 次元 的な理解の程度、図面の説明状況(b) ・授業への取り組み状況、用具や機材の扱い、 作図技術の上達度合い、完成までの計画 性(c)
	8					
	9					
	10					
三 学 期	11		教科書、 製図用具、 パソコン	20		・課題の完成状況、図面の正確さと明瞭性、線 や記号の意味と使い方の理解度(a) ・図面の正確さと明瞭性、読図能力、3 次元 的な理解の程度、図面の説明状況(b) ・授業への取り組み状況、用具や機材の扱い、 作図技術の上達度合い、完成までの計画性(c)
	12					
	1					
	2					
	3					

合計 70 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	土木構造設計	単位数	3	学年	3	科	土木工学科
使用教科書		「土木構造設計2」(実教出版 工業 752)							
副教材		担当者作成プリント							

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、土木構造物の設計に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 土木構造設計について部材や構造物に作用する力を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 土木構造物の構造や設計に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 安全で安心な土木構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- ・定期考査において一定の基準点以上を得ることが重要となる。
- ・授業には必ず関数電卓を用意しておく。
- ・演習プリントなど配布されるものはファイルに綴じるなどして管理する。
- ・計算が多いので、計算過程を良く理解するよう努力する。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<p>土木構造物について部材や構造物に作用する力を踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。</p> <p>土木構造物にかかる力を計算し、道路橋示方書などの設計ルールに従って、土木構造物の安全性についての確に判断できる知識を身につけている。また、土木構造物の設計を進める手順を理解し、構築する環境により設計条件が変わっても計算できる知識や技術を身につけている。</p>	<p>土木構造物の構造や設計に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。</p> <p>土木構造物の設計に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、基準を遵守した設計を行い、土木構造物の安全性を判断できる能力を身につけている。また、それらの計算結果や考察などを報告書で報告する習慣や発表できる力を身につけている。</p>	<p>安全で安心な土木構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p> <p>土木構造物の構造や安全性に興味・関心をもち、土木構造設計の学習に意欲的に取り組むとともに、将来において土木技術者の一員として多様な構造部材の設計に挑む心構えと態度、知識を身につけようとしている。</p>
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(年5回) ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(年5回) ・単元ごとの課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言内容 ・行動観察 ・授業への取り組み

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	土木構造 設計のあ らまし	教科書、 電卓	30	・土木構造物の 設計	・橋の各部の名称を理解している。また、橋の 設計法のうち「許容応力度設計法」を用いて設 計するが、要求される性能によりほかの設計法 を用いることがあることを理解している。
	5				・設計に用いる 主な荷重	・橋の設計手順について理解している。また、 橋に作用する荷重の種類を理解している。
	6				・設計に用いる おもな荷重	・死荷重は橋の材料に使用する単位体積重量に よって決まることや、活荷重は設計する部材に 対して最も不利な応力が生じるように載荷す ることを理解している。
		鋼構造物 の設計			・橋の耐震設計	・主桁を設計する場合の活荷重の載荷状態を分 布図で表現できる能力を身につけている。
					・土木構造物の 材料とその特徴 と性質	・橋の耐震設計について、震度法による設計を 理解している。また、橋の耐震性能やレベル 1 地震動やレベル 2 地震動の設計地震動を理解し ている。
					・土木構造物の 鋼材の加工	・土木構造物に使用される材料の性質が、示さ れている数値などによってそれぞれ違いや意 味があることを知識として理解できる。
					・H形鋼を用い た道路橋の設計	・橋の実例から、鋼板や形鋼、ボルト、棒鋼、 セメントなどに示されている寸法や内容物に ついて、図面などから読み取ろうとする能力や 技術を身につけている。また、加工手順や鉄筋 端部の曲げ加工の基準値、継手の基準、溶接記 号などの基本的な知識を身につけている。(a) ・構築される土木構造物が地形や環境、社会的 な要請による違いがあることを適切に判断で き、私たちの生活に必要な土木構造物や施設 を、目的別に整理し、発表することができる。 さらに、さまざまな荷重を性質の違いにより分 類できる。 ・死荷重や交通状況や設計条件に応じて適切に 活荷重を載荷して計算し、報告書にまとめるこ とができる。 ・地震時の設計について、その考え方を上部構 造と下部構造とで発表することができる。 ・鋼材の表示に使用される記号や数値から鋼材 の種類や意味を判断したり、決められた表示方 法を用いて表記することができる。 ・鋼材加工に用いられる機械や鋼板の切断や孔 あけ、鉄筋端部の曲げ加工、継手、溶接接合、 端部の処理、ボルト接合などの作業内容が、写 真から判断できる能力を身につけている。 ・H形鋼を用いた道路橋の主桁に荷重が作用す

					<p>ることで端部と中央部でどのような応力が生じるのかを考察でき、死荷重と活荷重それぞれにおいて生じる応力を判断し、計算によって求めることができる。また、示方書の規定や各種基準書と照らし合わせながらそれぞれの部材の設計を行うことができ、報告書にしていねいにまとめることができる。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの身のまわりにある土木構造物に関心があり、それらの構造物の設置目的や構造上の特徴、設計方法に関心がある。 ・橋の設計に関して、それぞれの設計法の違いや特徴、設計手順、橋の各部の名称について知ろうとする。また、橋の設計に用いられる荷重について、その種類と働きを意欲的に知ろうとする。また、設計する橋の構造や交通状況などによって適用される活荷重の違いについて興味や関心がある。また、地震の多い日本において、橋の耐震設計について興味や関心を示し、積極的に知ろうとする。 ・土木構造物に使用されている材料の性質やそれらの扱い方に興味や関心がある。 ・鋼材とコンクリート材料において、分類や表示方法、力学的性質や許容応力度などを知ろうとする。また、それらの数値が設計において、どのような意味をもつのか知ろうとする。 ・鋼材の加工手順や方法、接合方法、加工のさいに決められている基準値などを自ら進んで調べようとする前向きな態度がみられる。 ・H形鋼を用いた道路橋の構造の特徴やそれぞれの部材の役割に関心を持っている。さらに、それらの部材を安全性や経済性に配慮しながら与えられる条件から求めるべき要素を一つひとつ確実に設計する意欲的、積極的な態度がみられる。 ・耐震設計として、鋼製支承にかわりゴム支承がなぜ用いられるのか、積極的に知ろうとする。(c)
二学期	7 8 9	鉄筋コンクリート構造物の設計	教科書、電卓	45	鉄筋コンクリート長方形梁の設計 <ul style="list-style-type: none"> ・許容応力度設計法による鉄筋コンクリート長方形梁の設計方法の基本的な知識を身につけている。 ・単鉄筋長方形梁・鉄筋コンクリート床版の断面に生じる圧縮応力、引張応力などを求めることができ、これらの許容応力度との比較から、単鉄筋長方形梁・鉄筋コンクリート床版の安全性を検討することができる。また、単鉄筋長方形梁・鉄筋コンクリート床版の断面設計において、構造上の規定を満たす部材の断面形状、鉄筋のあき・かぶり、鉄筋量を求め、斜め引張鉄筋の必要性を判定し、引張鉄筋、スターラップ、主鉄筋、配力鉄筋を配置することができる。 ・擁壁は、どのようにして土圧を抑えることが

	10	基礎・土留め構造物の設計			擁壁の設計	<p>できるかよく理解している。また、たて壁・つま先・かかとの各版において、主鉄筋の配置を理解している。また、擁壁の設計において、土圧の計算ができ、沈下・滑動・転倒に対する安定計算ができる。構造上の規定を満たす断面形状、鉄筋のあき・かぶりなどを求め、擁壁に生じる圧縮応力、引張応力などを求めることができる。さらに、これらの許容応力度との比較から、擁壁の安全性を検討することができる。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単鉄筋長方形梁・斜め引張鉄筋・鉄筋コンクリート床版を設計するうえで、単鉄筋長方形梁・鉄筋コンクリート床版に荷重が作用すると、どのような応力が生じるのか、どのような鉄筋を配置するのかを考察して判断することができる。また、一連の計算と照査結果を報告書にまとめ、報告することができる。 ・擁壁の構造上の特徴を整理し、設計において求める要素を整理し、その手順や一連の計算について、報告書にまとめて報告することができる。 ・鉄筋の配置方法や支持地盤との関係を踏まえ、各版がどのように設計されるのかを考察し、安定のための判定方法を判断することができる。(b) ・鉄筋コンクリート長方形梁の構造に興味や関心を示し、その特徴を知ろうとする。また、長方形梁に荷重が作用したとき、長方形梁が安全であるための断面形状や鉄筋の配置などに興味や関心を示し、単鉄筋長方形梁・斜め引張鉄筋・鉄筋コンクリート床版における設計の考え方や手順について、知ろうとする。 ・擁壁構造物に興味や関心を示し、その特徴を知ろうとする。また、擁壁の沈下・滑動・転倒に対して安定であることを理解し、擁壁に使用される構造材料の性質、擁壁構造物の設計の考え方や手順について、積極的に学ぼうとする姿勢がみられる。(c)
	11					
三 学 期	12		教科書、電卓	30	擁壁の設計(個別設計課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・擁壁の設計において、土圧の計算ができ、沈下・滑動・転倒に対する安定計算ができる。構造上の規定を満たす断面形状、鉄筋のあき・かぶりなどを求め、擁壁に生じる圧縮応力、引張応力などを求めることができる。さらに、これらの許容応力度との比較から、擁壁の安全性を検討することができる。(a) ・擁壁の構造上の特徴を整理し、設計において求める要素を整理し、その手順や一連の計算について、報告書にまとめて報告することができる。また、鉄筋の配置方法や支持地盤との関係を踏まえ、各版がどのように設計されるのかを考察し、安定のための判定方法を判断することができる。(b) ・擁壁構造物に興味や関心を示し、その特徴を知ろうとする。また、擁壁の沈下・滑動・転倒に対して安定であることを理解し、擁壁に使用される構造材料の性質、擁壁構造物の設計の考え方や手順について、積極的に学ぼうとする姿勢がみられる。(c)
	1					
	2					
	3					

合計 105 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	社会基盤工学	単位数	2	学年	3	科	土木工学科
使用教科書		「社会基盤工学」（実教出版 工業 770）							
副教材		担当者作成プリント							

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会基盤の整備に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会基盤の整備について自然環境との調和及び防災を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 社会基盤の整備に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 安全で安心な社会基盤を整備する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・授業には必ず出席し、学習意欲をもって取り組む姿勢が大切です。
- ・授業中は積極的に発言し、議論を深めることを重要視します。
- ・提出物は期日厳守してください。
- ・各考查では合格点以上の点数を目指して頑張りましょう。
- ・グループごとに調査の結果をまとめ発表することもあります。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	社会基盤の整備について自然環境との調和及び防災を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	社会基盤の整備に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	安全で安心な社会基盤を整備する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考查 ・レポート ・演習プリント ・ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・授業内グループ学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組みや姿勢 ・板書ノートの状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	暮らしと 社会基盤	教科書	20	・社会基盤の整備と土木事業	<p>・社会基盤整備の現状を理解し、環境、災害などを考えながら進めなければならない土木事業の重要性とその役割について理解できている。また、社会基盤にはどのようなものがあるか把握し、安全で快適な国土がどのように形成されてきたかをまとめることができる。</p> <p>・土木事業が産業や経済の発展に果たした役割について理解できている。また、土木技術が今後どのように発展していくか考え、それによって人々の生活がどのように変化していくかを調べ、適切にまとめることができる。</p> <p>・総合的な国土計画について理解し、土木技術の果たす役割がどのように重要であるかを理解できている。また、安全な国づくり、美しい景観の創造、福祉を考えた社会基盤整備の具体的な進め方を考え、整理することができる。</p> <p>・交通需要を予測し、需要に応じてどのような輸送機関を整備していったらよいかといった基本的な知識を身に付け、計画することができる。また、輸送機関の特性を理解し、環境問題などを考えた総合的な交通計画をたてることができる。</p> <p>・道路の関連施設について理解し、安全で快適な走行のためにどのような施設の整備が必要か理解できている。また、路線、道路の区分、車線数、速度、横断面構成、線形をどのようにするかといった、環境問題も考えた安全で快適な道路の設計をすることができる。</p> <p>・建築限界と車両限界、スラック、カントなどの線路設備を含め、安全で快適な走行のためにどのような施設の整備が必要かといったことを理解できている。また、他の交通機関と連絡しやすい停車場設備を計画するなど、環境にやさしい鉄道の需要を増大していくことを考えた計画をすることができる。(a)</p> <p>・社会基盤の整備がどのように行われ、それによって人々の生活がどのように変化してきたかといった判断ができるとともに、整理・要約することができる。</p> <p>・復興事業における土木事業の役割、土木技術の発展にともなう土木事業の形態の変化がどうであったか判断ができ、述べることができる。</p> <p>・戦後の国土開発について理解し、省エネルギー</p>
	5				・暮らしを支えてきた土木技術	
	6	交通・運輸			<p>・国土計画と社会基盤の整備</p> <p>・交通、運輸のあらまし</p> <p>・道路</p> <p>・鉄道</p>	

					<p>一など地球環境に配慮しながら社会基盤整備を行っていくにはどうしたらよいかといった役割や課題を述べることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通需要がどのように変化していくかといった判断ができ、輸送体系の整備をどのようにしていったらよいかを説明することができる。 ・交通需要の推計について理解し、道路をどのように計画していったらよいか判断し、提案することができる。 ・輸送量の増加にともなう施設設備を、安全・効率を考えて今後どのように計画していくかといった判断ができ、その概要をまとめることができる。(b) ・人々の生活や産業にとってなくてはならない社会基盤施設が、土木事業によってどのように建設されているかについて学ぼうとする態度を身に付けている。 ・人々の生活の向上に貢献している土木技術について関心をもち、意欲をもって土木史を理解しようとする態度を身に付けている。 ・国土開発計画や社会基盤整備がどのような観点から進められてきたか関心をもち、意欲をもって防災や維持、エネルギー問題などを考えた社会基盤の役割について把握しようとしている。 ・交通機関がどのように発展してきたかに対して関心をもち、意欲をもって工業の発展と交通輸送の変化について学ぼうとする姿勢をもっている。 ・路線の計画、道路の設計に対して関心をもち、意欲をもって道路の機能を理解し、道路の果たす役割について考えようとしている。 ・鉄道の種類・構造に対して関心をもち、意欲をもって鉄道の機能や新しい技術を理解しようとする態度を身に付けている。(c)
二 学 期	7 8 9	交通・運輸 水資源	教科書	30	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾 ・空港 ・都市交通施設 ・交通運輸の環境対策 ・水と人とのかわり <p>・港湾の施設・設備について理解し、シーバースや臨港交通施設など新しい港湾施設についても理解できている。また、海と陸上の交通を結び付けるターミナルとして、総合的な交通網の整備計画をすることができる。</p> <p>・空港の関連施設について理解し、どのような施設の整備が必要かといった知識を習得できている。また、空と陸上の交通を結び付けるターミナルとして、総合的な交通網の整備計画をことができ、国際ハブ空港としての位置付けができる。</p> <p>・都市鉄道や新交通システムについて理解し、どのような結節点施設の整備が必要かといったことを意欲的に学習しようとしている。また、交通渋滞やラッシュの緩和を考え、需要と供給のバランスのとれた都市交通施設の計画をすることができる。</p> <p>・公共交通機関の利用促進・物流の効率化・バ</p>

10	11			<ul style="list-style-type: none"> ・利水 ・生活用水と排水 ・治水 ・水環境の保全と回復 	<p>リアフリーの役割について理解し、地域に応じた計画的な対策を身に付けている。また、環境問題に加え、バリアフリーなどの重要性も考えた交通網の整備計画をすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堰、ダム、遊水池などの構造物についての知識を身に付け、降水量や地形を考えた河川総合開発計画について理解できている。また、わが国の自然条件を考え、土砂災害や洪水などによる災害のない治水事業や利水を考え、より有効的な河川開発の計画をすることができる。 ・ダム、取水施設、送水施設の機能や役割について理解し、水資源の保全についても理解できている。また、自然にやさしい水力発電や生活用水として使われている河川水の利水計画をすることができる。 ・上水道の取水・浄水、配水給水システム、下水の排除方式、下水道、終末処理場汚泥処理のシステムなどについて理解できている。また、水量・水圧・水質の三要素が整った上水道、雨水・汚水を処理する下水道の計画をすることができる。 ・治水施設の名称や特性に関する知識を身に付け、河川改修と海岸の防護、治山・砂防の役割や機能について理解できている。また、ダムや河川改修などの治水計画、砂防ダムや海岸堤防の整備など、具体的な災害防止計画をすることができる。 ・水環境について理解し、自然にやさしい多自然川づくりなど、生物環境を含めた水辺の環境整備について理解できている。また、河川や湖沼の水質悪化を防止し、人々の生活をなごませるような河川計画をすることができる。(a) ・わが国の産業発展の大きな原動力となった港湾の重要性を理解し、総合的な港湾の整備について果たすべき役割を述べることができる。 ・空港の規模、位置、配置、施設、設備など、空港の計画をどうするかといった判断ができ、創意工夫する能力を身に付けている。 ・街路や都市高速道路の整備状況を理解し、今後どのように計画していくかといった判断ができ、事業者が果たすべき役割について説明することができる。 ・二酸化炭素の排出量や騒音などを減らす計画をどうするかといった判断ができ、それぞれの交通機関の望ましい環境のあり方を検討することができる。 ・生活用水や工業用水、雨水の利用を含めた水の循環をどのようにしていくかといった判断ができ、整理・要約することができる。 ・降水量と水資源の関係について理解し、どのように水資源を確保していくか創意工夫する能力を身に付け、発表することができる。 ・上水道・下水道の施設の規模をどのようにして計画するかといった判断ができ、人々が生活しやすい施設計画について創意工夫し、説明することができる。 ・洪水、地すべり、土石流、高潮・津波、海岸浸食などの原因を考え、対策について望ましいあり方を検討することができる。 ・異常気象と水資源の関係について理解し、どのように水環境を回復していくかについて、問題点をみいだすことができる。(b) ・港湾の種類・特徴に対して関心をもち、意欲をもって港湾の機能、施設・設備などを理解しようとする態度を身に付けている。 ・空港の種類・構造に対して関心をもち、意欲
----	----	--	--	--	---

					<p>をもって空港の機能、施設・設備などを理解し、これからの空港の役割について前向きに取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要の多い都市交通に対して関心をもち、意欲をもって都市交通の機能を理解しようとする態度をもっている。 ・地球温暖化や騒音など、さまざまな環境問題に対して関心をもち、意欲をもって理解しようとする態度を身に付けている。 ・水の循環がどのように行われているかについて関心をもち、水が人々の生活に与える影響について学ぼうとする態度を身に付けている。 ・水の安定的な利用に対して関心をもち、意欲をもって機能や特性を理解しようとする態度を身に付けている。 ・われわれが生活するうえでなくてはならない上水道・下水道の施設に対して関心をもち、それらの役割や機能について考えようとしている。 ・河川や海岸の治水施設に対して関心をもち、意欲をもって機能や特性を理解しようとする態度を身に付けている。 ・地球をとりまく環境の変化に対して関心をもち、意欲をもって水の有効利用について学ぼうとする態度を身に付け、みずから実践しようとしている。(c)
三 学 期	12 1 2 3	暮らしとまちづくり	教科書	20	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と都市計画 ・都市の再生 ・暮らしのエネルギー ・災害と防災 ・循環型社会の形成
					<p>・都市計画法をはじめとする関係法令、整備の現状や今後の課題、都市整備の重要性とその役割について理解できている。また、国土計画および地域計画を考え、自分の住んでいるまちづくりをどのようにするかといった都市計画を提案することができる。</p> <p>・緑地や公園の整備が人に潤いややすらぎを与えるばかりでなく、温度上昇や大気汚染、騒音の緩和などにも効果があるといったことについて理解できている。また、美しい景観の創造や豊かで安全なまちの再生のため、今後どのように整備していくかを考え、具体的な整備方法などを検討できる。</p> <p>・同じ火力発電であっても燃料や発電方式によって大気汚染を削減できることや、廃棄物発電など資源の有効利用について知識を習得できている。また、自然にやさしいクリーンエネルギーや省エネルギーシステムの整備などをどのように普及・促進していくかを考え、資料の収集を行うことができる。</p> <p>・ハザードマップを作成しておくことや的確な情報提供が被害を最小限に食い止めることを理解し、情報システムの提供をすみやかにできるような方法を身に付けている。また、不燃化促進区域（避難路）を整備し誘導することが火災時に有効であることや洪水時に地下街の多い都市部においてすみやかに避難することがいかにたいせつであるかを具体的な事例を通して説明することができる。</p>

					<ul style="list-style-type: none"> ・建設廃棄物のリサイクルの現状を理解し、今後さらに進めていく品目や、目標値の維持が必要な品目と今後の課題について理解できている。また、廃棄物の総排出量をできるだけ抑え、最終処分量を少なくするために、どうしたら再生利用量を増加させることができるか、身近な活動事例を調べて説明することができる。(a) ・環境影響評価を考えた都市計画をどうするかといった判断ができ、住民・自治体・事業者が取り組む役割について説明することができる。 ・人に潤いややすらぎ、そして安全で安心できる生活を与えてくれるまちの再生をどうしていくか、創意工夫する能力を身に付けている。 ・かぎられたエネルギー資源をたいせつにし、地球環境に配慮したエネルギー整備をどうしていくか、さまざまなエネルギー推進の内容を紹介することができる。 ・地震災害や都市水害など多様化する自然災害の特徴について理解し、被害を最小限に食い止めるための必要な整備・対策について、防災の観点から提案することができる。 ・大量の廃棄物を処理することが地球温暖化にも影響していることを理解し、リサイクル促進のためにどうしたらよいかを創意工夫する能力を身に付け、みずからも地域社会での活動を実践することができる。(b) ・都市開発の歴史や関連した法制度に関心を持ち、意欲をもって安全で住みやすいまちづくりについて前向きに取り組んでいる。 ・都市部を中心とする温度上昇や大気汚染などの公害に対して関心を持ち、水と緑の多いまちの再生について意欲的に学ぼうとする態度を身に付けている。 ・エネルギー資源に対して関心を持ち、地球温暖化や環境破壊等の問題を考えたエネルギーの整備について取り組もうとする意欲をもっている。 ・過去の災害と被害状況がどうであったか、今後どのような災害が想定されるかといったことに関心を持ち、意欲をもって災害防止について学ぼうとする態度を身に付けている。 ・廃棄物の変遷について興味関心を持ち、さまざまな廃棄物問題に対する意識が高く、循環型社会の形成に取り組もうとする意欲をもっている。(c)
--	--	--	--	--	--

合計 70 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	土木基盤力学	単位数	3	学年	3	科	土木工学科
使用教科書		「土木基盤力学」（実教出版 工業 756）							
副教材		担当者作成プリント							

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、土木工事に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 土と水に関わる事象について土木工事の計画、設計及び施工を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 土木基盤力学に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 土と水に関わる事象を力学的に解析する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・必要に応じ、コンパス、三角定規、関数電卓を使用する。
- ・実習で取り扱う内容もあるので、十分意識して授業に取り組むこと。
- ・演習プリントなど配布物はファイルに綴じるなどして管理をしっかりとすること。
- ・考査では所定の点数以上をとれるよう努力すること。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	土と水に関わる事象について土木工事の計画、設計及び施工を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	土木基盤力学に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	土と水に関わる事象を力学的に解析する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・演習プリント ・ノート ・授業内グループ学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・演習プリント ・ノート ・授業内グループ学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 ・板書ノートの状況 ・授業内グループ学習

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	水の物理 的性質	教科書、 電卓	30	・水の性質	・水の基本的な性質について、固体や液体との相違点が現象面から把握できる。
	5	静水圧			・表面張力と毛管現象	・水理学の計算を行う上で、水理でよく使う単位、単位体積重量および水の密度の物理量を理解して扱うことができる。
	6	水の流れ			・静水圧	・水の粘性係数と動粘性係数をニュートンの粘性方程式から導き出せる。
					・平面に作用する全水圧	・表面張力と毛管現象について計算で求めることができる。
					・浮力と浮体	・静水圧の大きさと作用位置の考え方、パスカルの原理、浮体に関するアルキメデスの原理が理解できる。
					・流速と流量	・平面や曲面に作用する静水圧の性質や分布、水圧機に作用する水圧、浮体の喫水や安定について、各種の土木構造物や土木施設に対する影響を考慮して問題を解決する。
					・流れの種類	・流れの連続性を理解している。
					・流れの連続性	・管水路と開水路におけるベルヌーイの定理を理解し完全流体や粘性流体に応用させることができる。
						・各種の流れの種類を理解し、水の流れの現象を把握することができる。
						・オリフィス・ゲート・せきの考え方を理解し、流量測定につなげることができる。(a)
						・水の基本的な性質、水理でよく使う単位、単位体積重量および水の密度、水の粘性係数と動粘性係数、表面張力と毛管現象について理解し、土木構造物を設計する上で考察を行い、諸問題を解決する方法を判断するとともに、自然界の現象面から理解し表現することができる。
						・平面や曲面に作用する静水圧や浮体に働く浮力の大きさを考えることができる。
						各種の土木構造物や土木施設に対する静水圧や浮力の影響を判断することができ、安全で経済的な構造物の設計に生かすとともに、その過程や考え方を表現することができる。
						・管水路と開水路における流れの連続性やベルヌーイの定理、粘性流体における損失水頭について、さまざまな場合に応じて考察し表現することができる。
						・オリフィス・ゲート・せきの流量の測定方法や求め方について考えることができる。(b)
						・水の基本的な性質について興味関心を持ち、自ら進んで学ぼうとする。

						<ul style="list-style-type: none">・液体の性質，水理でよく使う単位，単位体積重量および水の密度，水の粘性，表面張力や毛管現象について意欲的に理解しようとしている。・平面や曲面に作用する静水圧の性質や，浮体に働く浮力の考え方に，興味や関心を持ち理解しようとする。・各種の土木構造物や土木施設に作用する静水圧や浮力についての知識習得を目指して，主体的に学習に取り組む姿勢がある。・各種の流れの種類，流れの連続性やベルヌーイの定理，粘性流体における損失水頭，流量測定に用いるオリフィス・ゲート・せき，流れの力と波の力に対して，興味や関心を持ち理解しようとする。(c)
二学期	7 8 9 10 11	水の流れ 土の生成と地盤調査 土の基本的性質	教科書、電卓	45	<ul style="list-style-type: none">・ベルヌーイの定理・損失水頭・土の生成・土の調査と試験・土の構成と状態の表し方・土の分類・土の締固めの性質	<ul style="list-style-type: none">・ベルヌーイの定理における各水頭を実際の土木施設や実験装置を想定して理解している。・運動量の方程式を理解して流れの力を考えることができる。・波力と波圧および波の種類について理解している。(a)・運動量の方程式を用いて流れの力を考えることができる。(b)・水の流れについての知識習得を目指して，主体的に学習に取り組む姿勢がある。(c)・岩石の種類と土の生成，ならびに土の性質を知るための調査や試験について理解を深め，土質調査と土質試験によって土の分類を行うことができる。・土の状態を表す諸量の関係とその計算方法について習熟することで，土の基本的な性質について理解を深め，土の締固めの性質について理解し，試験の方法とその結果の判断を行うことができる。(a)・土の状態を表す諸量の関係を把握し，その計算結果から土の分類や性質を判断することができる。また、土の生成と地盤について把握し，土の調査と試験についての的確に判断し，その理由を表現できる能力がある。・土の状態を表す諸量の関係を把握し，その計算結果から土の分類や性質を判断し，表現することができる。(b)・構造物の基礎となる地盤がどのような過程を経て生成されてきたのかについて関心を持ち，地盤や土の性質を知るための調査や試験について理解しようとする意欲的な態度がある。・土の基本的な性質について関心を持ち，土の状態を表す諸量の関係と計算に意欲的に取り組む姿勢を身につける。(c)
三学期	12 1 2	土中の水の流れと毛管現象 地中の応力	教科書、電卓	30	<ul style="list-style-type: none">・土中の水の流れと透水性・毛管現象と土の凍上・土に働く応力	<ul style="list-style-type: none">・土の透水性は透水係数の値で示され，土の種類によってその値は大きく異なることを理解する。また，透水量の計算方法は透水断面がはっきり決定できる場合とそうでない場合に分けて行われていることを理解する。・様々な地盤条件における地中の応力の変化と伝わり方の様子について理解するとともに，土

	3			<ul style="list-style-type: none"> ・荷重による鉛直方向の増加応力 ・土中の水の流れによる地中応力の変化 ・有効応力と過剰間隙水圧 	<p>被り圧を求めることができ、浸透力と有効応力の理解のもと、クイックサンド現象の判定ができる。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土の透水性について理解し、透水係数の値から透水性を判断し、表現することができる。 ・全応力・有効応力・間げき水圧の関係を理解し、地中の応力を的確に判断できるとともに、クイックサンド現象が生じるかどうかの判定を行うこととそれを表現することができる。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土中を移動する水の流れについて関心を持ち、それを表現する方法について意欲的に考察する態度を身につける。 ・土木構造物などが地盤上に設置された場合の地中への応力の伝わり方や水の流れによる地中の応力の変化に関心を持ち、これらを表現する方法を身につけるための意欲的な態度がある。 <p>(c)</p>
--	---	--	--	---	--

合計 105 時間

課程 全日制

教科	工業	科目	土木施工	単位数	2	学年	3	科	土木工学科
使用教科書		「土木施工」（実教出版 工業 750）							
副教材		担当者作成プリント							

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、土木施工に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 土木施工について実際の土木事業を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 土木施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し、解決する力を養う。
- (3) 安全で安心な土木構造物を施工する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・成績不振者に対しては、課題・補習等を課す場合がある。わからない所があったら質問するなどし、すぐに解決すること。
- ・練習問題は必ず自分の力で解くこと、わからないところは友達に質問するなどし、友達と一緒に考えることも大切。しかし、自分も納得する（理解する）まで考えること。
- ・定期考査において一定の基準点以上を得ることが重要になる。
- ・提出物は期日厳守で取り組み、取り組んだ内容を理解し、定期考査でその成果を示すように。
- ・社会に出てからの仕事の進め方、仕事上の留意点、労働に関わる法規などキャリア教育的側面もあります。進路をイメージしながら受講しましょう。
- ・日頃から土木分野の仕事に興味を持ち、専門用語、業界用語の習得の参考にしましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	土木施工について実際の土木事業を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	土木施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し、解決する力を養う。	安全で安心な土木構造物を施工する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとに行う小テスト ・ 中間考査、期末考査、実力考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ 課題プリント ・ 授業内グループ学習 ・ ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発言内容 ・ 学習意欲、行動観察 ・ 授業への取り組み ・ 板書ノートの状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	いろいろな 施工技 術と各種 工事用機 械	教科書、 電卓	20	・トンネル	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な土木工事の実例を踏まえて、各種土木工事に関する基本的な知識を身に付けるとともに、環境問題にも配慮した施工技術を理解している。 ・原動機や各装置の仕組みについての知識や、工事用機械と電気設備に関する基礎的な知識を身に付け、性能表示や特徴などを理解している。(a) ・地形や使用目的などによって、適切な調査・計画・工法が取られていることについて実例を通して考察し、判断できる。 ・それぞれの技術内容を理解し、適切な社会基盤施設を安全かつ経済的に構築する工法が判断できる。 ・いろいろな施工技術が日本の社会資本を支え、また、自然災害の多い日本の国土防災における重要性を判断できる。 ・原動機の基本的原理を考え、工事用機械の駆動のしくみを考察できる。 ・各種の工事用機械・電気設備の仕組みを考察し、適正な使用方法を判断できる。(b) ・社会資本であるいろいろな土木構造物が持つ意義や必要性に関心を持ち、それらを計画的かつ安全につくる施工技術に対して意欲的に探求しようとする。 ・身近な土木工事に関心を持ち、あわせて防災の観点からもいろいろな施工技術に関心を持ち、意欲的にそれらを探求しようとする。 ・原動機となるディーゼルとガソリン機関、および電動機の特徴について意欲的に探求しようとする。 ・工事用機械や電気設備の役割を理解し、身近な工事用機械について意欲的に探求しようとする。(c)
	5				・上下水道	
	6				・ダム ・橋梁 ・鉄道 ・河川 ・砂防 ・港湾 ・海岸 ・各種工事用機械	
二 学 期	7	工事のし くみと管 理	教科書、 電卓	30	・工事のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・土木工事の一般的な手順を理解し、発注者と建設業者の実施手順の相違を実例を通して身につけている。また、土木工事の進め方について、手順を追って段階的に理解し、一般競争入札の実例をもとに、入札書や工事請負契約書などを作成し、実際に活用することができる。 ・土木工事の施工計画について、作成手順や関連法規などについて理解している。 ・土木工事費の構成を理解し、実例を通して見積もり計算ができる知識を身に付けている。 ・管理活動の原則である PDCA の手順を理解し、工事の4大管理（QCDS）を監督・検査と関連させる知識を身に付けている。また、計画・実施・検討・処理の管理活動に、日常的に取り組む技
	8				・施工計画 ・工事の見積り	
	9				・工事の管理 ・安全衛生管理	

					<ul style="list-style-type: none"> ・ 工程管理 ・ 品質管理 ・ 原価管理 	<p>術を身に付け、事例を通してしながら監督の立場になっても、工事の4大管理の重要性を理解し、その技術を適切に活用できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全衛生管理体制の内容を理解し、工事現場における安全衛生管理の進め方を労働安全衛生法と関連させて理解している。 ・ 工程表の種類とその特色を理解し、工程表の作成と日程計算、また工程表の日程変更についても対応できる知識を身に付けている。 ・ 品質保証計画における品質管理の位置付けと目的を理解し、基本的な統計的品質管理の処理ができ、検査の重要性を理解するとともに、抜取検査の内容を身につけている。また、実習実験や事例を基に統計的品質管理手法による品質管理図を作成する知識を身につけている。さらに、管理図から、原因や結果、処理について考えられる実践的な技術を身につけている。 ・ 原価管理の手順を理解し、コンピュータなどを使って予定原価と実際原価を計算し、分析できる知識を身に付けている。また、事例を基に、予算・実績対応表を作成し分析する技術を身に付けている。(a) ・ 工事の発注から入札・契約・着工・引渡しの一連の流れを総合的に考え、事例を通して工事のしくみを判断できる。 ・ 施工計画の重要性を認識し、作成手順や留意事項などについて、事例を通して考察し、計画の整合性を判断できる。 ・ 土木工事費の構成要素を理解し、それらをもとに事例の中に共通性を見出し、考察できる。 ・ PDCAの考えを原則に、事例における4大管理の問題点を見出し、監督の立場に立って、検査等の適正な判断ができる。 ・ 労働災害発生の要因を実例と関連付け、考察できる。また、安全衛生管理体制を確立するための進め方について、具体例から問題点を見出し、総合的に考え、判断したりできる。 ・ 目的に応じた工程表の作成から工事の進捗状況や検討方法について、事例を通して考察と判断ができる。 ・ 統計的品質管理における考察ができ、異常原因や結果の判断ができる。また、品質管理における検査の業務を理解し、良・不良、合格・不合格の判断を行い、管理表を作成できる。 ・ 予算・実績対応表から、工事の進捗状況などと関連付けて考察でき、金銭面での管理が判断できる。(b) ・ 土木工事の進め方に関心を持ち、手順や段階について事例を通して意欲的に探求しようとする。 ・ 施工計画の基本事項を理解し、事例を通して、事前調査・技術計画・管理計画などを関連法規や立案手順と関連させながら、意欲的に探求しようとする。 ・ 請負工事費はどのような要素から構成されているかに関心を示し、事例と関連させて探求しようとする。 ・ PDCAを理解し、土木工事を進めるうえでの4大管理に関心を持ち、事例を通して、工事の監督者の立場に立って、その重要性を意欲的に探求しようとする。 ・ 労働災害に関心を持ち、それを如何に減少させるかを探求し、安全衛生管理体制の確立について意欲的に探求しようとする。 ・ 土木工事における工程管理の目的に関心を持ち、事例に基づく工程表を意欲的に探求すると
	10					
	11					

					共に、態度を身に付けようとする。 ・身近な製品における品質管理の重要性に関心を持つと同時に、土木工事における品質管理について意欲的に探求し、統計的品質管理の手法を習得する態度を身に付けようとする。 ・工事原価の低減について関心を持ち、実例から意欲的に探求しようとする。(c)
三 学 期	12 1 2 3	土木法規	教科書、 電卓	20	<ul style="list-style-type: none"> ・労働基準法 ・労働安全衛生法 ・建設業法 ・道路関係法 ・環境保全関連法規 ・その他関係法規
					<ul style="list-style-type: none"> ・労働基準法に定められた労働契約や災害補償等について、実例や日常生活に関連付けた基本的な事項を理解し、実例に関連付けた知識を身に付けている。 ・労働安全衛生法に定められた安全衛生管理体制や各種工事の安全基準などについて基本的な事項を理解し、実例に関連付けた知識を身に付けている。 ・建設業法の基本的事項を理解し、実例を通して、建設業の許可や建設工事の請負契約などの知識を身に付けている。 ・道路法や道路交通法について、基本的事項を理解し、土木工事の実例に関連付けた知識を身に付けている。 ・環境保全に関する基本的な法規を理解し、各法の目的や内容について実例を通して、実際に運用できる知識が身に付いている。 ・港、河川、火薬、都市計画などの基本的内容について実例を通して理解し、これらの法を運用できる知識を身に付けている(a) ・労働基準法で定められた事項と実際の社会における活動を比較し、さまざまな問題点を法規上の観点からに考察、判断できる。 ・安全衛生管理体制の基本事項を理解し、各種工事の安全基準や計画の届出などについて実例を踏まえて考察すると共に適正な判断ができる。 ・建設業法の基本的事項を理解し、実例を通して、建設業の許可基準や請負契約の考察、判断ができる。 ・道路関係法の目的や制限を理解し、建設工事に関わるさまざまな問題点を法規上の観点から考察、判断できる。 ・環境保全は、全地球的な問題としてとらえると共に身近な例を通して、環境保全の推進を総合的に考察できる。 ・土木工事に関係するいろいろな法を理解し、実例を通して考察、判断ができる。(b) ・労働者と使用者の関係や就業制限などについて関心を持ち、労働基準法で定められた事項が実際の社会の中でどのように活用されているか意欲的に探求しようとする。 ・安全衛生管理体制に関心を持ち、法規上の観

					<p>点から労働災害防止の態度を身に付け、実例を通して意欲的に探求しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設業における許可や施工技術の確保などに 関心を持ち、身近なあるいは将来の進路先を選 ぶ際の態度を身に付けようとしている。また、 実例を通して、建設業の許可や請負契約を意欲 的に探求しようとする。 ・道路の整備や管理、交通の安全に関する法律 に関心を持ち、意欲的に探求しようとする。 ・環境基本法や循環型社会形成推進基本法の理 念を理解すると共に環境保全に関心をもち、意 欲的にそれらを探求しようとする。 ・土木工事を行う際のいろいろな関係法規に関 心を持ち、意欲的に探求しようとする。(c)
--	--	--	--	--	---

合計 70 時間